2—561

島田三郎・安部磯雄監輯

廓清

本誌の本領

醜業公許制度の廢止を期すると共に男女貞潔の德操を進め家庭を純潔にし社會風紀の廓清を圖ること。

宗教道德慈善事業生活問題婦人問題其他社會の諸問題を常に率直に研究且つ報導すること。

日本廓清會本部東京

第四巻第貳號

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）・（大正三年二月十五日發行）（毎月一回十五日發行）

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

群馬縣の風紀取締の方法に就て
各府縣知事並警務長諸公に望む

本會が公娼制度の廢止す可き所以を唱導すること將に三年に垂んとし、其間絶へず機關誌「廓清」を諸公の机下に贈呈したり。蓋し之れ正義人道を熱愛するの餘、吾人の主張の多少にても諸君に了解せられ、之れが實行を見るに至らんことを庶幾したる爲ならずんばあらず。而して某々三四縣にありては幸に本會の役員が當局諸公と意見を交換するの機會を得、本誌を以て大に參考に資する所ありとし、出來得る限り實行せんとの言を聞き、聊か快としたれども、未だ多數の府縣に於ては果して如何なる說を持せらるゝかを知る能はず、本誌の主張に對して如何なる感想を有せらるゝか、吾人の熱心に與り聞かんとする處なりき。

然るに群馬縣は、諸公の熟知せらるゝ如く本邦唯一の廢娼縣にして、吾人の主張の實施を見る事既に滿二十年に及べるが、花柳病の蔓延とか、私娼の跋扈とか、乃至風俗の頹廢の如き、諸公の危惧せらるゝが如きものは一も之れ有らず。而も近年、私娼に對する取締の完備は、正義人道の立脚地よりするも、經國濟世の見地よりするも、今日の處吾人の理想に近きものとして稱讚を惜しむ能はざるものあり。玆に於てか吾人は、本號に於て同縣取締の概要を揭げ、特に副會長安部磯雄氏は自ら筆を執つて之に對する明快なる論評を加へ冀望を述へられたれば、是非とも諸公の熟讀を得、一斷容易に實行し得べき事なるを看取せられ、敢然人道に適ひ正理に沿ふ施設に出でらるゝことを得ば、何の喜びか之に過ぎん。憂國の至誠默する能はず、敢て諸公の賢明を冒す。

會費の納入と振替貯金口座の新設

從來會費の納入は、爲替、切手、郵便集金等の方法の外、益富政助氏所有の振替口座を利用し居たるが、斯くては双互の不便不尠に付、今般左の通り本會名儀にて振替貯金に加入したれば、以後はすべて本口座により拂込相成り度し

振替東京一二七〇七三番

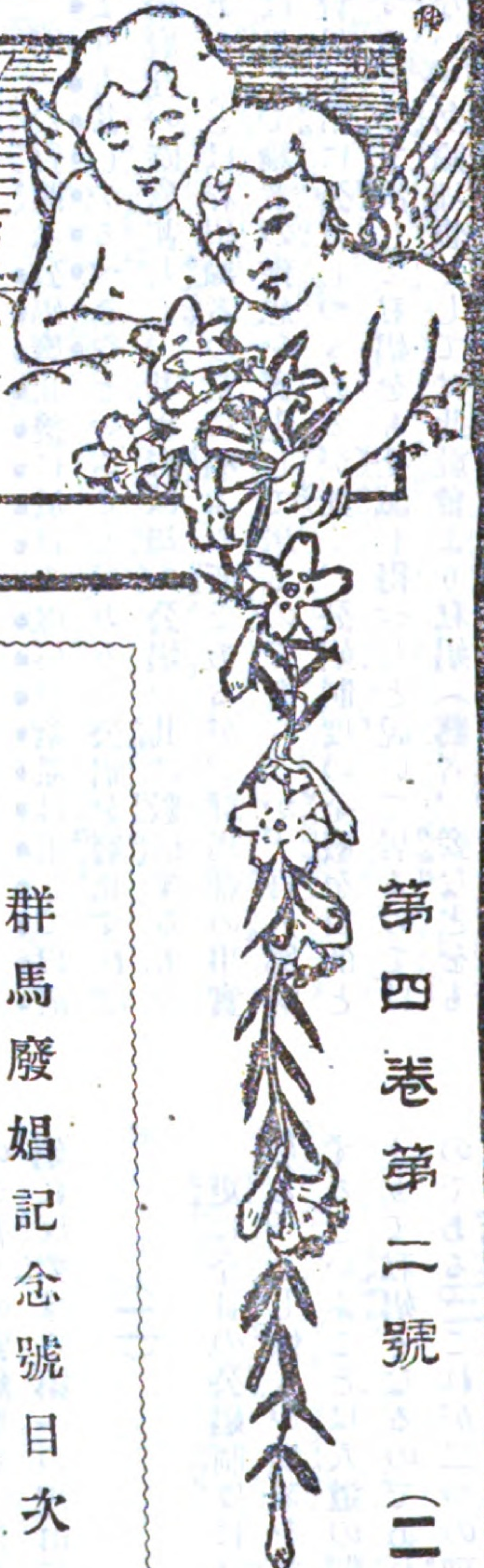
東京市神田區美土代町三ノ三
廓清會本部
電話本局四九四〇番

大正三年二月十四日納本 一部定價金六錢
大正三年二月十五日發行（每月一回十五日發行）

編輯兼發行人 伊藤秀吉
神田區三河町一丁目十四番地
印刷人 小林照雄
神田區三河町一丁目十四番地
印刷所 丸利印刷所
神奈川縣川崎町砂子百三番地
發行所 廓清發行所

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

THE PURITY
廓清



第四巻第二號（二月）

群馬廢娼記念號目次

□群馬縣の賣笑婦取締に就て全國の各地方長官に望む……安部磯雄

□群馬縣警察部長よりの書翰……

□群馬縣の風紀取締に就て……岸本警務長

□群馬廢娼二十年紀念會開會の辭……德江亥之

□群馬廢娼二十年記念會祝辭……大隈重信

□群馬廢娼二十年記念會祝辭……島田三

□廢娼後の群馬縣人に望む……油谷治郎七

□當時の追懷……湯淺治郎

□公娼廢止後の大問題……安部磯雄

□眞先に廢娼を斷行せし伊香保…木暮武太夫

□群馬縣の禁酒郷……記者

□廢娼記念大會の記……記者

□藝妓の跋扈と家庭の婦人……鳩山春子

□眞新婦人會の活動……記者

□石井十次氏を悼む……記者

□雜誌の雜誌

△將來觀百方面……

△男子の不品行より起る悲劇……

□英文欄……

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

公娼なき群馬縣の賣春婦取締に就て

清廓會副會長　安部磯雄

公娼を廢止すれば花柳病の取締が出來なくなるといふことは全く空論であるとは吾人の平常主張して居る所であるが、公娼廢止を二十年の昔に於て實行せる群馬縣の成績に就て見れば吾人の主張が大體に於て誤りないことが分る。別項に揭げたる群馬縣警部長事務官岸本庸通氏の談話は實に公娼廢止問題に對して一大斷案を下したるもので、何人も愼重に攻究すべき所の好材料である。余は此談話を土臺として公娼廢止を躊躇せる政府當局者に向つて左の如き質問を呈したい。當局者がこれに對して相當の答辯を與へらるゝならば余は滿腔感謝を捧ぐるのである。

（一）

第一の質問は公娼廢止後に於ける風俗の紊亂は果して以前よりも甚しかるべきやといふことである。公娼を廢止すれば密賣淫の跋扈甚しく、其害毒は却て公娼の其に數倍するものあらんとは存娼論者の常に唱ふる所であるが、群馬縣の事實は果して論者の豫想を實現して居るのであらうか。吾人廓淸會員は常に公言しつゝあるが如く、公娼制度の全廢を目的とするもので決して私娼をも全滅し得べしと說いて居るのではない。勿論理想としては此社會より私娼（藝者、妾などをも含む）をも全然一掃したいのであるが、今日直にこれを實行することは全く不可能であることを知つて居る。然らば吾人が公娼制度の全廢を主張する理由は何處に在るかといふに、これは極めて明白である。吾人は國家が賣淫を一種の營業と認めこれを公許することを不都合と考へる。賣淫を公認するが故に貸座敷營業者から稅を徵收することゝもなり、店を張つて見物人にも見せるといふ言語同斷の處置ともなり、貸座敷の主人が市會議員となり、縣會議員となり、町長となるといふが如き奇怪なことをも生ずるのである。賣淫の事實を全滅せしむることは目下不可能であるは言ふまでもないが、賣淫其ものをなるべく人々の目に觸れぬ所に隱すといふことは容易に實行し得べきことである。臭い物には蓋をするといふのが吾人の當然取るべき方針ではあるまいか。これ吾人が公娼に反對する第一の理由である。

（二）

更に今日の公娼制度には事實人身賣買といふことが伴ふて居る。よし婦人が醜業を營むにしても、これを强制的にやらするといふことは人道の觀念が許さない。彼等が自由意志によりて私娼となるのであれば今日の如き慘害を見ずして濟むのである。これが二つの理由である。公娼を廢すれば必ず私娼が增加するといふ反對論があるけれども、これは吾人の立

場に對しては必ずしも有力なる議論ではない。何となれば公娼を變じて私娼となすことが即ち吾人の主張であつて、目下私娼をも全滅し得べきなどとは考へて居ないからである。若し二千人の公娼を廢したゝめ更に二千人の私娼が出來たとすれば、吾人の目的はこれによりて達せられたのである。然し二千人の公娼を廢すれば一方に三千人の私娼が出來るから、結局社會の風俗は以前よりも紊亂するのだと論ずる人がある樣だが、これは全く杞憂である。群馬縣に於ける成蹟は決して斯る心配のなきことを明示して居るではないか。岸本警察部長の談話によれば群馬縣下に於ける酌婦の數は一千人、藝妓の數は六百二十五人であるから、人口百萬の縣に對しては決して多數とは言へない。吾人は更にこれ以外に私娼なるものはないのであるかを質問した所が、警察部長は親切にも返書を送りて次の如く答へられた。『……取締方針にも明示せる如く健康診斷を受ける酌婦以外の者は絶對に其餘地なからしむる主旨なるを以て旅館料理店等の雇女に對しては嚴密の注意を主人に與へ其疑ひあるものは解雇等の手段を採らしめ飲食店其他の雇女は別段其數を制限せざるも客席を設けて之に侍するを許さゞるを以て（若し客席を設けて飲食物を供すれば之れは料理店としての制限を加ふ）多數の婦女を雇ふの餘地もなし其他苟くも淫賣婦の出沒する個所の如き瞭然たるを以て嚴密監視を加へ居り候條本縣に於ては藝妓酌婦の數即ち賣淫の恐れある婦女の數と認め間違無之次第に有之候……』これによりて見れば公娼廢止後に於ける風紀紊亂といふことは全く空論に過ぎない。政府當局者の意見は如何であるか。

（三）

風紀に關する點は以上陳べた通りであるが、政府當局者が公娼廢止に反對する第二の點は私娼に對して花柳病の取締が困難であるといふことである。然し群馬縣の私娼取締は慥に公娼制度の下に於けるよりも好成績を擧げて居る。公娼は取締れるが私娼は取締りが困難であるといふことは一應尤もである樣に思はれるけれども、此點に於ても群馬縣は慥に好模範を示して居る。群馬縣以外の府縣に於ては公娼を公認しながら私娼をも默許して居る。これを群馬縣が酌婦を默許して一方に酌婦以外の私娼を嚴密に禁止し、酌婦一千、藝者六百二十五名の外全く私娼なしと言ひ得るに比すれば、吾人は其相違の著しきに驚かざるを得ない。若し各縣の當局者にして私娼の取締を嚴重にするの考へさへあらば、公娼廢止後の風紀に就て何等心配すべき所はない。要するに當局者の決心一つによりて公娼廢止を斷行することは容易である。當局者の心配する梅毒の如きも明治四十四年の徵兵檢查に現はれたる成績によれば、千人に對する梅毒患者は愛媛縣の六十三人、三六を第一とし、群馬縣は十五人、三五であつた。即ち三府四十四縣の中第四十四番目に位するといふ好成績を表して居る。政府當局者は精密に群馬縣の私娼制度を調查する必要があるではないか。

第三に陳べたいのは群馬縣が率先して藝妓の身體檢查を實行して居るといふことである。政府當局者は何故にこれを全國に及ぼさないのであらうか。梅毒の蔓延を防ぐといふ方針を採れる政府が此點に於て餘り寛大であるのは全く辯明の出

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

來ぬことではないか。

(四)

群馬縣の制度は勿論未だ理想的でない。吾人の希望は賣春婦を全く料理店から引離して今一層秘密に營業せしむるに在る。更に强制的檢梅法を廢して彼等自身の自由意志にて治療の出來る樣な方法を採りたい。然し目下群馬縣に行はるゝ賣春婦取締法は最も吾人の理想に近いものであるから、これを天下に紹介して識者の參考に供すると共に、殊に政府當局者の注意を促したい。

群馬縣の風俗取締に關して岸本警察部長よりの來翰

拜啓先日御來訪の處失禮のみ御海恕被下度候、今回御來書の主旨拜承致し候、早速御返事可仕筈の處、折あしく出張不在中にて唯今御手紙拜見したる次第に有之候。本縣に於ける酌婦取締の狀況は先般委曲申上候通りにて、之れ以外の密淫賣婦の存在如何が御問合せの要點と存じ候處、之に對しては最も嚴格なる注意視察を加へ根本的絶滅を期し居候爲め其數は實に少數にして殆んど藝妓酌婦以外には賣淫的常習犯は縣内には無しと申す程に御座候、或は調査洩れならんとの疑ある程なるも、事實決して間違無之候。卽ち賣淫的婦女の存在するは(一)甲種料理店藝妓のみ客席に侍するもの(二)乙種料理店酌婦の侍するもの、この二者以外にありて賣淫の恐あるものは(一)旅館の女中(二)料理店の仲居(三)飲食店の女中、下宿屋、煙草屋その他諸興業類に關する揚屋の雇女と推定すべきも取締方針にも明記せる如く健康診斷を受けたる酌婦以外の者は絶對に其餘地なからしむる主旨なるを以て、旅館料理店等の雇女に對しては嚴密の注意を主人に與へ、其疑あるものは、解雇などの手段を採らしめ、飲食店其他の雇女は、別段其數を制限せざるも、客席を設けて之に侍することを許さゞるを以て(若し客席を設けて飲食物を供すれば之を料理店としての制限を加ふ)多數の婦女を雇ふ餘地も無し。其他苟くも淫賣婦の出沒する箇所の如き瞭然たるを以て嚴密監視を加へ居り候條本縣に於ては藝妓酌婦の數卽ち賣淫の恐れある婦女の數と認め間違無之次第に有之候。併し之れ等の場所以外に於て賣淫の恐あるもの絶無とは行かず、縣下各警察署に於て、素人淫賣と着目せるもの昨年の調査に依れば百十五名あり。此數は縣下二十一ヶ所の警察本、分署に割りあつれば極めて微々たるものにて、後家、又は多數の女子ありて生計貧なるもの等を指目して報告せるものに有之、確たるものには無之、小生の信ずる處にては之れ等は常習的淫賣婦とは認めざる程度のものと存居候。要するに酌婦に對し默許的方針を取りて、之に健康診斷を課し、其他のものは根絶の手段を取締の要義と致し居候。云々。(下略)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

群馬縣の風俗取締法

群馬縣警部長事務官　岸本康通氏（談）

記者曰、氏は廢娼記念會に臨場せられ、更に懇親會にも出席せられ、親しく我安部副會長に對し同縣の風紀取締につき詳細に説明せらるゝ處あり副會長も今日の處吾人の理想に近きものとして喜ばれた位であつたが。記者は翌朝官邸に氏を訪ふて更に詳細に其談を聞く事を得たから、左に之を掲ぐる事とした。

（一）女子の職業が盛んだから賣笑婦は少い

私が廢娼論を鼓吹するやうに誤解されては困る、自分はたゞ本縣は廢娼は輿論であり、且つ既に公娼のない縣に臨んで風俗取締を如何にすべきか、といふ事を考へ、而して實行して居る處をお話するに止まるのだから、豫め其邊の誤解のなきやうに願ひたい、勿論其話の歸結が貴會の主張せらるゝ處に一致する點があるとして、貴會の方で廢娼論を唱導せらるゝのは御自由である。

といふことを冒頭に色々の話が出た。

群馬には公娼がないものだから、動もすると世間では私娼の跋扈が甚しい樣に傳へる。けれどもそれは實狀を知らぬ皮相の見解で、一度本縣に來た者は何人も賣春婦の害毒の意外に少いといふ事を認めて居るのである。元來本縣は女子の職業が盛んであつて如何なる女も養蠶製糸乃至機織等の職業に從事して居るから、本縣人にして賣笑婦などになるものは少い、これは昨日も安部先生が申された處であるが、實際彼等は子供の時からさういふ風に育ち、相當の收入があるのだから、恥しい思ひをして不正な收入を圖る必要はないのである。されぱこそ上州は「嬶天下に空つ風」などゝいふ語も出來て女の幅の利くのである。けれども本縣にはいはゆる上州達磨と稱する賣淫婦がある。これが世人をして本縣の私娼の跳梁を疑はしめてゐる原因であるけれども、此の上州達磨なるものは、本縣に於ては「酌婦」として嚴重なる監視の下に置き害毒の範圍を狹くする事に努力してゐるのであるから、事實は少くも大正元年九月以降、即ち藝娼妓に對する取締内規の制定後は、確に反つて他府縣よりも良好である事を信じて疑はぬ。

（二）表面に現さない方針

本縣に於ては飲食店を、甲種料理店、乙種料理店、飲食店の三種に分けて取締つてゐる。甲種料理店といふのは酒間の斡旋に主として藝妓を用ゆるもので、乙種料理店はそれに酌婦を用ひ、たゞ飲食店といふのは婦女を用ひざるものである即ち甲種料理店は藝妓の出入する通常の料理店で、乙種料理店はいはゞ女郎屋とも見るべきものである。飲食店は客席のない煮賣屋であるから多く云ふ必要を見ないが、先づこれ等

に對して本縣は場所の制限を施してゐる、卽ち甲種料理店は役場其他の公務所、學校、又は感化院から容易に望見し、又は曲背の容易に到達するやうな場所には許可しないといふ方針である。それから藝妓屋及び乙種料理店は、前項の外に國道、縣道、又は市町村樞要の幹線道路に沿ひ、又は其路上より容易に望見し得可き場所には許可しない、既に以前からあつた分に對しては、適當な時期に適當な位置に移轉せしむる方針を採る事にしてゐる。

次に甲乙料理店、飲食店に對し、來客や藝妓及遊藝人を宿泊せしめてはならぬ、客引を出したり、飲食遊興を勸誘したり、來客の要求しない飲食物を供したり、衣類其他の物品を酒食料、席料等の抵償として受取つたり、又は質入、賣却等の依賴に應じたり、或は來客に面會を求むる者があつた時、之を拒み又は隱蔽したりすることを嚴禁し、犯す者は嚴罰に處するやうにしてゐる。

營業者は家族の婦女や雇婦女をして、店頭や其他通行人の眼に觸れ易い場所に座り停立したり、又はうろ〳〵したりさせぬ事にしてゐる。これは奨の土地の制限と共になるべく表面に現さない方針であつて、所謂下水に蓋をしたものと云つてよからうと思ふ。來客を家の外まで送り迎へをし、又は來客にくつついて外出したりする者があつたら直に解雇を命じてゐる。乙種料理店では酌婦を他家に出して酒の酌などをさせたり、宿泊せしめぬことにしてゐる、乙種料理店の宿屋兼業も禁じてゐる。それから暴利を貪ることを防ぐために、飲食物の種類と其價格を記載した木札を客室毎に必ず提示するやうにしてゐる。

群馬縣藝妓現在數（大正二年十一月末日調）

管轄警察署名	藝妓數	管轄警察署名	藝妓數	管轄警察署名	藝妓數
前橋	一三七	下仁田	七	桐生	七八
大胡	一二	藤岡	一七	大間々	一九
高崎	八五	吉井	五	沼田	七三
澁川	一九	伊勢崎	三九	原町	一二
安中	四	境	一七	長野原	三
松井田	一一	太田	二九		
富岡	一八	館林	四〇	計	六二五

（三）人員の制限と密賣淫の取締

藝妓や酌婦の年齢を定めて、本縣は一年年を多くしてゐる卽ち藝妓は滿十二歳から、酌婦は滿十六歳からでなければ許さぬ。處が營業者の方では色々な狡猾な手段をめぐらして來る、たとへば家族だ、親類の者だといふ樣な譯で、酌婦と同じ事をさせて、酌婦としての取締を免れ、檢梅や稅金を免れやうとするから、乙種料理店に於て家族の婦女を客席に使用せしむるは一名に限るといふ事にした。若し三名の家族の婦女を客席に使用するなら、あとの二名は酌婦として取締るのである。處がこれだけではまだ不備である、それは實際に酌婦としての仕事をさする目的で、監視と稅金を免れるために養女にする者があることである。そこで本縣に於てはこんな狡猾い奴を防ぐのには、養女は入籍後滿二年經過したものでなければならぬといふ事にしてゐる。

それから特に注意すべきは、乙種料理店の酌婦が一軒の家

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

に二十人も三十人も居るとなると、事實上女郎屋同樣になつて風俗を亂すといふ處から、此點にも制限を加へたのである卽ち一軒の家で、ほんとうの客席三坪につき一人の割合を過してはならぬとした、つまり六疊一人の勘定である。けれどもまだこれだけでは不充分である、大きな家で幾十坪もの客室を持つ事になると、やはり多數の酌婦が出來るから、更に市にありては十人、町は五人、村は三人を超過してはならぬと定め、兩方から此精神を全うする事にした。そして現にこの二つの制限に超過してゐる者は、一年間だけ現在數を認むることを許した。

けれども密賣淫といふものは色々の方法で現はるゝ、曩には家族の婦女を制限したが、今度は炊事婦といふ名稱で雇女の客席に出るものが段々出來て來る、そこで乙種料理店の炊事婦は四十歲以上の者に限る、といふ規程を設けた。それと共にまた甲種料理店の酌婦の密淫を防ぎ、乙種料理店の酌婦同樣の行爲ありと認めたら、直に雇主に命じて解傭せしむる樣各署長へ内命をした。

尙抱主の爲に奴隸的になり易い酌婦の身の上を保護する方にも力を注ぎ、甲乙料理店にして酌婦を虐待し、又は犯人を庇護したり、或は酌婦の債務を濫りに增加したり、其他不法の行爲があつたら、營業の許可を取消す事に定めて居る。

(四)藝酌婦に施行した檢梅の精神を徹底せしむ

次に語るべきは檢梅である、廓淸會などでは色々議論もあるか知らぬが、目下日本に於ては兎に角檢梅制度を以て公衆衛生上必要ありとしてゐる立脚地から、本縣に於ては酌婦に定日を設け、一ヶ月三回の檢梅を實施してゐるのみならず、藝妓に對しても一月一回一定の日に健康診斷を行ふてゐる。檢梅の成績がどうなつてゐるかといふ事は、數字を以てお話する事が出來ないが、組合の方から醫師の指定を乞ひ、警察醫監督の下に自營的に施行せしめてゐるけれども、要するに自分の考では、此結果彼等の自衛といふ上に多大の效果がある事を確信してゐる。これを始めてから各自自ら非常に警戒するやうになつたと思ふ、殊に藝妓の如きは最も信用上罹病を恐るゝやうになつたと思ふ。其外醫師をして適當の時に衛生講話をなさしめ、彼等の衛生思想を高めるやうにしてゐる

藝妓の檢梅を實行しやうとした時は隨分世論の反對があつた、姉さん株などは淫賣婦と一列に見るとは不都合だとか何とか隨分鼻息を荒くして、いきまいたものであつた。中には憤慨して廢業すると云つて脅迫的に騷ぎ、また事實廢業したものもあつたが、今日はさうした連中も仕方なしに戾つて來てゐるから滑稽である。私は止めるなら止めても構はぬ、却つて結構だといふ考で斷乎として所信を實行したのであるが他府縣に於ても一方娼妓の檢梅をやつて居るのだから、藝妓の檢梅をやつたらよささうなものと思ふ。公衆自衛上娼妓の檢梅が必要なら、どうしても同時に藝妓も檢梅しなくてはならぬ。まだ〳〵日本の藝妓は充分自衛の處置を取つて居ると認むることは出來ぬ、たゞ反對を恐れるからであらうと思ふけれども私の考ではこの問題は一斷あるのみで、そんなに心配する程の難問題ではないと思ふ。

本縣の檢梅は直接でないから情實が纏綿し易いだらう、充分の檢梅が行へないだらうと考へるものがある。私はそんな

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

事はないと斷言は出來ないが、其處迄疑ふのは無理であらうと思ふ、さうなつて來ると直轄の病院であつても安心は出來ぬ、我々は決して監督は怠らないけれども、これは醫師の德義心に訴ふる外はないので、其選定に就ては多少の考慮を盡してゐる積りである。技倆德望とも土地の第一流の人を選定依囑して如何はしい人物にしないから、自然指定醫になる事は醫師自身も名譽とし、患者も非常に多く流行るやうになつてゐる、警察は此點を利用してなるべく名譽といふ風にさせる、さうすると何か不都合の事があつて囑託を解かれるやうなことがあるとすると、今度は反對に非常な不名譽となり、社會の信用を失墜する事になる譯であるから醫師は充分責任を以て職務を遂行してゐると信じてゐる、また現に酌婦も藝妓も病氣があるものはどし〳〵入院して治療してゐるのである。

本縣の花柳病はどういふ狀態にあるかといふ事は。性質上統計のとりやうがないが、徵兵檢査に於ける壯丁の成績を見れば、本縣は他府縣に比し年々好成績を擧げてゐる。

(五)漸次減少せしむる方針

最後に一言すべきは、本縣に於ては現狀を以て滿足せず、漸次減少せしむる方針を採つてゐるといふ點である。卽ち大正元年八月三十一日現在を以て、每市町村の現度とし之に超過せざる場合の外新規營業を許さぬといふ事にした町村にありては此限度內であつても、現に乙種料理店のない部落に對しては新規營業を許してはならぬといふ事にした。

乙種料理店及酌婦數指定表

場所	乙種料理店數	酌婦數	場所	乙種料理店數	酌婦數	場所	乙種料理店數	酌婦數
中之條	七	二四	吉井	四	一〇	木崎	二	四
伊香保	三	六	藤岡	一六	五二	強戶	六	一二
澁川	九	二〇	鬼石	一一	四〇	太田	九	二六
古卷	四	八	萬場	七	一〇	多々良	六	一六
金古	五	一七	新町	八	二七	館林	六	一三
板鼻	六	一五	倉賀町	一〇	三〇	毛里田	五	一〇
安中	四	八	高崎	五四	一七〇	桐生	二九	四三
原市	四	八	前橋	五〇	一五〇	大間間	一四	二五
磯部	五	一三	駒形	九	二四	藪塚	三	六
松井田	一三	三〇	伊勢崎	一三	二六	沼田	一五	二六
富田	一五	三五	玉村	一二	三〇	境	一一	二三
一ノ宮	七	二〇	下仁田	一六	一七	尾島	八	一七
						總計	三六六	一、〇〇一

而して縣下の乙種料理店數及酌婦數を別表の通り指定した此の總數は僅に千一人である。而も此數は他府縣に於ける娼妓と曖昧料理店の酌婦を加へたる數と比すべきものであるから、近縣に比しては餘程好成績であらうと思ふ。

今日の處、本縣にあつては公娼の必要を認めぬ現在の狀態に於て風俗上よりも、衞生上よりも相當の成績を擧げ得るといふ事は斷言してよい。

と話頭を轉し

此問題には隨分緣故がある、自分は岡山生れで、安部先生は以前十年も同地に敎鞭をとつて居られたし、大阪の曾根崎新地遊廓廢止當時は、大阪府の保安課長として直接其衝に當つて居つて、隨分貴會の林歌子女史等に襲擊されました云々

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

群馬縣廢娼二十年記念會開會の辭

廓清會群馬支部長
前前橋市會議長　德江亥之助

満堂の紳士淑女諸君、本日は嚴寒の折柄にも拘らず、斯く多數に諸君の御來會を得、誠に欣喜に堪へず、玆に謹んで感謝の意を表す。

世に事の矛盾し居るもの頗る多しと雖も、目下我國に存在する公娼制度なるもの程、教育の精神に矛盾し、刑罰法規に矛盾し、衞生の趣旨に矛盾し、而して人道に反し、風俗を害するものあらざるべし。若し一工女に對する雇主の虐待あらんか、世の操觚者は筆を揃へて其非を攻擊するにあらずや。若し一被告人に對する司法官の不當なる取調あらんか、世の法曹は口を揃へて人權蹂躙を叫ぶにあらずや。若し一傳染病者の發生することあらんか、世の當局者は奔走盡力是れが防遏に努め、鼠一疋すらも時に數十錢若くは數圓を以て購はるゝにあらずや。世の識者は動物の虐待すらも尙ほ之を禁止せんと講究しつゝあるにあらずや。然るに今我同胞たる數萬の婦女子は公娼と稱せらるゝ醜名と行爲との下に如何に虐待せられ、如何に侮辱せられ、而して如何に彼自身を害し、又た如何に他人の精神と肉體とを害しつゝあるか。

又た我國法は人身の賣買を嚴禁し、刑法は社會に對する風俗の罪として猥褻姦淫賭博富籤を嚴禁し居るにあらずや。然るに今我同胞たる數萬の婦女子は事實に於て人身の賣買を敢へてせられ、而して彼自身の行爲が如何に良風美俗を害しつゝあるか、因襲の久しき政治家も法律家も教育家も宗教家も見て以て之を怪まざるもの多きは、實に我等の慨嘆に堪へざる處なり。

然るに余輩の敬愛する群馬の先輩諸君は、夙に公娼の弊害と又た此制度が野蠻時代の遺物なることを認識し、先づ縣下より之を一掃せんと企圖し、明治十五年三月の縣會に廢娼建議案を提出して之を可決し、時の縣令楫取素彥氏は、直ちに縣民の意思を尊重して、同年四月甲第二十七號を以て明治二十一年六月限り縣下の公娼を廢止するの旨を達せられたり。然るに偶々佐藤與三なる人縣令として赴任せられ、廢止の前月卽ち明治二十一年五月甲第三十二號を以て當分廢娼を延期すとの旨を達したり。於是民論沸騰し、翌年の縣會に於ては又々延期取消の建議案通過し、爲めに明治二十三年三月縣當局者は縣令第二十一號を以て、同年九月三十日を限り新町安中町妙義町の三ケ所を廢することゝ爲し、次で翌明治二十四年九月縣令第三十九號を以て、明治二十六年十二月末日を限り縣下全體の公娼を廢止する旨を達せられ、以て今日に至れり。其間明治三十一年十一月十八日時の知事草刈親明氏、突然遊廓設置の地區を公許するに至りたれども、如何で正論公議に抵抗することを得べけん、中央政府は其無謀を叱責し直ちに古莊嘉門氏を以て本縣の知事と爲し、古莊知事は同年

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

同月二十四日縣令を以て前知事の指定地公許を取消したり。今や本縣は日本全國唯一の廢娼地たり、而して之を僂指すれば縣下に全然公娼の斷絕せられてより、玆に滿二十ケ年、余輩實に今昔の感に堪へざるなり。依つて一面には當年に盡力せられたる先輩幷に青年諸君の功勞を記念し、又た一面には益々奮勵努力し以て此主義主張を天下に發揚せん爲め、本日を卜し玆に此會を開設したる次第なり。

諸君、精神的文明を以て物質的文明よりも優秀のものとせば利根の水、赤城榛名妙義の山よりも、又た古來世に稱せられたる群馬の蠶桑織物よりも、全國唯一の廢娼地たる本縣は寧ろ此一事を以て天下に誇るべきものならずや。一言以て開會の辭を述ぶ。

祝辭

廓清會顧問 伯爵 大隈重信

醜業公認制度の非倫非理にして二十世紀の今日之を存置せしむべきものに非るは、世の識者の夙に認識する所なりと雖も、因襲の久しき起つて之が廢止を絕叫するもの、我廓清會以外其人に乏しきは吾人の常に遺憾とする所なり。然るに群馬縣に於ては疾既に明治十三年の昔之が廢止を提唱し、遂に事實の上に敢行し、日本全國中唯一の公娼なき縣として名聲を內外に馳せつゝあるは、余が竊に敬服する所たり。今や公娼を一掃してより滿二十年に當り、之が記念の會を開く。余は滿腔の熱誠を以て感謝と敬意とを當時者に致す。冀くは益奮勵し、我大日本帝國をして速に此非倫非理の制度を廢滅せしめ、先覺者たる群馬縣民の光榮ある使命を完ふするに至らんことを、玆に一言を述べて以て祝辭とす。

廓清會々長 島田三郎

吾人が大聲叱呼して公娼の廢止すべき所以を力說する事、既に多くの年を經たり。然れども今尙世人の之に耳を傾くるもの誠に少し、偶々一二某々縣の公娼廢止を實行したるものなきにあらずと雖も、能くこれを持續して今日に及べるものなし、然るに獨り群馬縣にありては、有志の士疾く業に公娼制度が野蠻の遺制にして其社會人心を蠱毒するの大なるを看取し、奮然立つて之が廢止を提唱し、縣民の輿論となり、縣會の決議となり、終に汚濁なる此制度を打破し、非公娼主義の急先鋒となり、現に全國唯一の廢娼縣として實績を舉げ、範を內外に示しつゝあるは、眞に群馬縣民の誇なると共に、吾人が最も感佩すべき事實にして、又吾人平生の主張が決して空論にあらざるを實證して餘りあるものと謂ふ可し。今や公娼廢止を斷行してより滿二十の春秋を經過し、本日を以て一大祝會を開き此光榮ある歷史を紹介せんとす。余や群馬に於けるこの大運動に聲援したること一再ならず、今日の盛事を聞き欣懷措く能はざるものあり。玆に滿腔の熱誠を以て之を祝し、併せて群馬縣諸士が唯これを以て能事畢れりとせず益進んでこの主義主張を全國に貫徹せしめ、恥づべく忌むべき此惡制度を掃蕩し、東洋君子國の名實を全からしめんことを囑望して止まざる所以なり。聊か蕪辭を述べて祝詞に代ふ

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廢娼後の群馬縣民に望む

廓淸會理事　油谷治郎七

〈一〉世界に率先したる群馬縣の名譽

滿堂の淑女及紳士諸君、今日は久々にて前橋へ參り、諸君と見ゆる事を得、頗る愉快に且つ光榮に存じます。殊に本日は湯淺先生を始めとして人類社會の大敵に向つて御奮鬪なされ、成功を收められた勇士諸君の凱旋紀念祝賀會であつて、私共は此壇上に立つ資格はなく、諸君から功名談を承る可き筈であるのに、却つて私が一場のお話を致すといふ事は、誠に光榮とする處である。

日本が外國の人の眼に映つて色々な感覺を與へてゐる中に外國に居る間最も厭で堪へられなかつたのは、日本は賣淫國といふ名稱である。然るに實地細く取調ぶるに從つて愈々取消す事の出來ない事實である事を確めた。世界中何處に行つても、都の一番目貫の場所に公に目立つ建築を持つてゐる賣淫婦はない、如何なる國にも日本の樣に血を賣りつゝも稅を拂ふてゐるの故を以て議員等に選ばれてゐる國はない。而して日本の醜業婦は亞弗利加の南端、西比利亞の雪氷る處に行つても、或は歐羅巴の胴中のアントワープの樣な處にも、椰子の花咲く新嘉坡兒、凡そ如何なる處にも君子國などゝ自ら誇稱してゐる國の賣淫婦が橫行して、醜態を曝してゐる。斯くては賣淫國なる汚辱極まる名稱は遺憾ながら頂戴しなければならぬ。然るに本縣にあつては二十年否湯淺氏の云はるゝが如くんば三十年も前から、此問題に勝利をして、堂々と凱旋式を擧げられるといふのは我々の歡喜に堪へざる處である

廢娼を實行して居る國は現今世界に三つある、第一は英國である、これは彼のバトラー婦人の奮戰によつて一八八〇年に廢娼を斷行する事となつたのである、次は諾威が一八八八年に廢止し、最近に於ては一九〇六年に丁抹が同じく廢止した。然るに群馬縣が議決をしたのは明治十五年であるから丁抹も諾威も未だやつて居ない、群馬縣は實に英國と略同じ頃であつたのである、世界に率先して居たのである、盛んなる事ではないか。私は湯淺先生其他の當事者に滿腔の敬意を表せねばならぬ。

〈二〉廢娼の精神を徹底せしめよ

私は今日は諸君の戰功談を聞いて喜ぶのみでなく一つの注文がある。最早諸君に對しては廢娼の必要とか理由とか實行の方法といふものを述ぶる必要もないのは私の愉快とする處であるが、全體廢娼の意義は、直に公娼の意味になつてゐる即ち女郎屋のなくなつたのが廢娼といふ特に狭義に考へられて居るが、外國では社會的害惡と云つて、これを三つに分類してゐる、第一は公娼である、第二は私娼又は密

娼と稱へらるゝものにして、第三は Monogamic Prostitution 即ち「妾」の如きものである、これは一人に對して貢つてゐる時間が長いだけで、そこに些かの節操を見るのではない、藝妓の如きはいふ迄もなく密娼の部に入るべきものであつて、或時としては第三の部には入る。

私の注文は即ち玆である、第二第三の意義は實行されてゐるか如何、第一の廢娼は既に實行になつたけれども、私は少しも本縣の事情を知らないが、藝妓や妾の類が若しありとすれば、廢娼運動をやつた記錄は、これを藏つて了ふべきでなく、尙續けて行るべきものである、根本的に社會の純潔を現はして來る迄は、廢娼の精神は徹底したものと云ふを得ぬ。

《三》挑戰の宣言ではないか

諾威のクリスチヤナでは一八八八年に廢娼した、後六七年は段々梅毒其他の花柳病が盛んになり、衞生家は非常なる反對を起して來た。幸に其廢娼運動に當つた熱心な人々は唯之を廢するのみではいけないといふので、クリスチヤナ人民が純潔といふ事に努力した結果、山から谷に下る如く統計表は漸次下降して今日は餘程少くなつて來てゐる。

丁抹は一九〇六年に廢した、やはり一部の人は大に反對した、公娼制度は道德上廢した方が結構であるけれども、然し之を經世的に考へると却つて害がありはしないか、花柳病が蔓延しないだらうかと虞れた。而して公娼制度の頃になかつた新現象は、着物を縫ふ女とか髮を梳る女といふ樣な職業的婦人にして病氣をもつて入院する者の少くない事である。之れは大變と金を出して調べて見ると、これは職業を有つてゐる如くして來てゐるものゝ、實は前に娼婦だつた者であるといふ事が分つて安心した事がある。コッペンハーゲンでは一萬何千圓といふ金を出して市醫十二人を置き、無料で病氣を治療する、たゞで入院が出來るのである、そして全く治る迄は退院をさせないといふ樣な事をやつてゐる、斯ういふ風に病氣に對しては安全辨を設けて、風俗警察の活動と共に、同地の病勢は段々下りつゝある、まだ僅に十年經つか經たぬ事であるから統計の結果は未だ分らないけれども、充分見込があるといふ事を當局者がいふてゐる。

承ると今日群馬縣は衞生上には誠によいといふ事である。私は其點に於て頗る喜んでゐる。衞生上にも充分注意すべき價値はあるが、私は更に一層道德の上に力を注いで貰ひたい處と思ふ。先程湯淺氏から、或地方に於ては藝妓のなかつた處に、今は數名の藝妓のある處があるといふ事を聞いた。これは諸君の活動すべき挑戰の宣言であると云つて可いと思ふ、さういふ事に向つて外國の人が如何に注意深くやつてゐるかを二つ三つお話して見やう。

《四》各國の廓清運動

紐育ではホムストックといふ元氣な人があつて、身を犧牲にして社會の純潔の爲に力を盡して居る、税關の官吏、警官、郵便局員と聯絡して、外國から來る青年の心を腐るやうな書物や繪畫を送つて來るのを、郵便局や税關に於て發見するやうに努め、男女間の純潔を破るやうな一切のものを防ぐ方法を講じてゐる。

コロンビア大學の教授プリンスマローはセリグマル等と道

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

徳衛生豫防會なるものを起して盛んに純潔を鼓吹してゐる。子供を集めて飽迄純潔を保たねば家庭の上にも社會の上にも恐るべき禍害が來る事を深切丁寧に敎へてゐる、セリグマンに太郎といふ子があればマローが懇切に男女の關係を説いて聞かせる、マローの子供はセリグマンが敎へるといふ風に子供を交換して男女間の事を淸くする樣に、個人々々に強く打込んでゐる。

國際的にも此問題は研究せられてゐる、ベルリン、ブラッセルなどに會議が開かれ社會的に大活動をやつてゐる。

英國ではアライアンス、オブ、オーナーといふものがあるブルンホールといふ人が十數年前に發起し今日は何處にも其支部がある、十二年間に純潔を勸める書物の數が三十六萬八千冊、小冊子で社會の純潔を保たねばならぬ、私の妻の外に關係せぬといふのを十六萬七千冊配つた。其集會には五六千人といふ樣な多人數が集り、英國皇帝陛下が祝電を寄せられるといふ有樣、英國の青年は斯くして社會の風俗を保つて居るのを見ると、勇しくも又羨しいと思つた。

婦人の側ではワーブソンといふ女が「雪の花」會なるものを起し、未婚の婦人が一人々々此會に連り、飽迄も淸い雪の花のやうな純潔を持せんことを期してゐる。

娼妓制度を撤廢したる英國は、如斯樣々な方面から努力して好成績を擧げてゐる。殊に軍隊に於ける花柳病の如きは年々歲をおふて減退してゐる。

《五》賣淫國の名稱を一掃せよ

私は一個々々の心の中に、純潔を植ゑつけるでないならば制度を廢しても姿を變へ形を改めて現はれて來るであらうと思ふ、社會的のペストは何處にあるか分らない、鼠一匹々々を逐ふて始めてペストを退治することが出來る。我々は個人々々の胸に宿るペスト菌を窮追驅逐して病毒侵入の餘地ならしむることに努めなければならぬと思ふ。茲に至つて始めて廢娼の精神が貫徹せらるゝ。

茲に私が快心に堪へないのは、二年前世界第一の金持ロックフエラーや日露戰爭の時日本に金を貸したシッフや、バーフイーといふ樣な人達の子息が合同して「社會衛生會」なるものを作り、茶屋女のやうな者、其他男女間の純潔を壞す者を片つ端から調べてゐる、更に手を歐羅巴に伸して根底から打壞す計畫を立てゝ居る。何しろ世界の金持が寄合つて居るのだから資金に困る事がないから、大袈裟の調査が行はれてゐる。日本に於ても社會的風紀の病根に向つて鋒先を向け、誰かゞ率先して金を出し、賣淫國などゝいふ不名譽を一掃するやうにありたいものである。

群馬縣は日本に於ける社會病の研究所である、本縣の實績如何は直に日本に於ける此問題の利鈍を圖る規準となるのであるから、縣民の責任は頗る重大なるものであると云はねばならぬ。

コッペンハーゲンやクリスチャンなどでやつた事は、內務省邊の一驚を喫してゐる處であるから、日本國家に於ける群馬縣の地位を思ひ、更に廓淸の大旆の下に、純潔を標榜して吾人と共に力闘せられんことを、本日の凱旋式を祝すると共に希望する次第である。（演說大要筆記。校閲を經ず文責記者にあり）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

當時の追懷

廓清會評議員
前群馬縣會議長　湯淺治郎

群馬縣の廢娼が不肖の指導によるといふ唯今の御紹介は、甚だ當らぬ。不肖が群馬縣會に議長の職を勤めたのは、國會開設以前から十年に及んだが、其間に二つの大事件があつた一は秣場事件で一は即ち公娼の廢止である。

既往の事は一切忘れ、茫として夢の樣であるが、廢娼運動の起り、群馬縣會に於ける發起者は、碓氷郡の眞島小十郎氏である。私共は之に賛成署名して提出した迄の事である。其當時縣下に於ては數十ケ所の樓主や、數百人の破戶漢連中が縣會に押寄せて來た。自分は藤屋旅館の二階に居つたが、彼等は私を取圍み種々な亂暴な擧動を以て威嚇した。それ迄は誰が廢娼の主謀者といふ事もなかつたから、一切自分が談判の衝に當るやうになつた。藤江君の兄さんが下に居つて二階を護り、蹴破と云はゞ破戶漢連中を逐拂ふつもりであつたといふ事であつたが、私の所に迫つてゐる者共の、前から來る奴は叩頭して種々歎願的に出るのに、私の後に續く連中は「毆れ」「やつつけろ」「殺せ」といふ風に脅喝する、そこで自分は「一體お前達のいふのは何方が本當だ、前から賴むのがほんとうか、後からいふてゐるのが眞實の心か」と尋ねた。這麼風に色々押問答の末、酒が醒めたのか、議論に服したのか一人去り二人去り消へて了つた事もあつた。

抑々之れ程の大問題になつた元はといふと、甚簡單な幼稚なものであつたやうに考へてゐる。それは碓氷郡は十何ケ村の内五ケ所は遊廓があつて、眞島君の子供が段々大きくなつて來たから、教育上困るといふ位であつたと思ふ。私は既に基督教を信じてゐるために其當時之れは賛助しなければならぬと考へて、贊同して運動を始めたのであつた。併し我等の主張が如何に正義人道に叶つても知事の如何によつてはどうなつたか分らないのであるが、幸に溫厚な楫取素彥氏であつたから採用される事になつたのである。それに女郎屋連の亂暴が却つて廢娼を成就せしめたと思ふ。實際彼等が亂暴しなかつたならあゝうまくは行かなかつたかも知れぬ。彼等の亂暴は却つて同志を激勵するやうな結果を見たのである。

今日は廢娼二十年記念會といふ事になつてゐるが、縣會で決議したのが明治十五年で廢娼令の出たのは十六年だから滿三十年に當る、それは兎も角何事も唱へるは易く、終りあるは六ケ敷い。我々は唯其端を開いたに過ぎぬ、今日迄には幾多の波瀾、幾多の曲折があつて、寧ろ其後縣下にあつて直接これに對戰奮鬪せられた人々こそ、功勞が深い、而して今日の名譽を荷ふべきであると思ふ。

尙私娼の絶滅は出來ぬとしても、出來る丈斯ういふものに對しても攻擊せられたい、私共も及ばず乍ら驥尾に附して盡力するであらう。

公娼廢止後の大問題

早稻田大學教授 安部磯雄

(一)問題は根本に遡つて究めよ

廢娼問題に對する私の意見は、「廓清」誌上に幾度も出して居るから、どういふ說を持つて居るかは既に充分御承知の事と思ふ。私がいつも用ゆる比喩は、公娼にせよ私娼にせよ丁度下水のやうなものだといふのである。これは非常に適切に當つてゐると自分免許で誇つてゐる。

然るに群馬縣に於ては、第一着に公娼を廢止して精神上の完全な下水が出來た。從つて今日は例の下水論を細說するの必要はない、卽ち私の說かんとする處は、廢娼は行つたが其次の問題は如何といふ事になる。之れが私共に取つて重大なる問題である。公娼を廢止したといふ事は我等の主張の結末ではない、漸くいろはが濟んだ處にしか過ぎぬ。處が此第二段の問題に移ると下水の比喩が少し具合が惡くなる、何故かなら、我々は根本的に汚い事をする者のない樣に望みを持つでないならば嘘であると思ふ。然るに下水はどうしても出ないやうにするといふ事は出來ぬ。して見ると藝娼妓を全く剿滅しやうといふ理想を我々は有つのであるから、此點まで來るともう下水の比喩は當て篏まらなくなる。

世の中といふものは驚く可き勢ひで進む、今日はすべて問題を根本的に取扱ふといふ時代になつた。譬へば貧乏人である。斯ういふものゝ救濟も從來は決して根本的になつてはゐなかつた、我々は貧乏人を救ふのにどういふ仕事をしてゐるかといふと、其の貧乏人の中の病人を救ふ濟生會の如きが稍々完備したものたるに過ぎぬ。しかもこれとても九牛の一毛で、況んや病人をなくするといふ樣な根本的の問題には、ちつとも觸れて居らぬ。次から次から出來てゐる。これは唯に日本に限らず西洋に於ても貧民救濟は慈善事業では追付かない事が分つて來た、救へば救ふ程出來る。英國には大分以前救貧院なるものが英吉利全土に出來て、全く食へなくなつたものは其處へ這入りさへすれば、食べさして貰へる樣になつてゐる。日本ではまだ斯ういふ慈善救濟の道が進んでゐないから、働くに職なく食ふに糧なき場合には、坐して死を待つ譯に行かぬから仕方がない、泥棒をする、そして監獄に入れられると、やれ〳〵これで飯がたべられると安心する。卽ち監獄は彼等の最後の生活を保障して吳れる處の樣な不都合な狀態になつてゐるが、流石に英國はかういふ場合には直に救貧院に於て救助されるやうになつて居る。而して一ヶ年に出入する人の數が二百萬から三百萬人の多數に上つて、いつ迄經つても減少する見込がない。石川五右衞門が世に盜人の種は盡きぬと云つたが、貧乏人も亦濱の眞砂のそれのやうである。そこで數年前、これは救貧院のやり方が惡いのではあるまいかといふので、委員を設けて調査することになつた。然

るに之れは他の種々な問題のために其儘になつてゐるが、英國人の考へでは、一體貧乏人といふものは何故に發生するものであるか、此の根本の原因に立返つて研究しなければ、眞の合理的救濟方は見出されないといふ事に歸着した。

（二）貧民の根本的救濟

大日本文明協會から「防貧論」といふシドニー、ウエッブ夫妻の著した書物の飜譯が出る事になつてゐるが、丁度私の友人が譯してゐる處を一寸眼に觸れた。それは百年前ウォートルローの戰に英のウエリントン將軍がナポレオンを破つた時に多數の戰死者を出したが、倫敦で貧民の多く住んでゐる町に妙な病氣が流行つてどん／＼死ぬ、而も其の數がウォートルローで死んだ以上といふので、倫敦は大騷ぎをやつた。後それはチブスである事が分つたが百年前迄はチブスといふ名すらなかつたのである。それがだん／＼病氣の根本に遡つて研究した結果、今日にてはチブス病は無くなつてしまつた。未だ東京にてはチブスや赤痢などがあるけれども、完全な上水下水を有つてゐる所には全く其跡を絕つたのである。

ウエッブは卽ち考へを茲に及ぼしたのである、チブスに對して我々は斯ういふ解決をなした。然らば貧乏といふ社會の病氣に對してもチブス同樣病氣の起る原因に歸れば必ず治する事が出來るに相違ない、二十年三十年努力すればそれから十年の後には貧乏も亦治ると論じてゐる。

此頃倫敦では百何十區の學務委員が、それ／＼自己の受持區域を廻つて、小學校に行く子供のあるなしを探してゐる。そして中には子供が病氣のため、足がないとか腰がどうとかいふ樣な事のため通學の出來ない貧民の兒童を探し出して、四人五人一緒に學務委員が馬車に乘せて學校に送り迎へをして居る。日本では學習院や華族女學校の生徒にも馬車で送り迎へされるものは多くない、然るに英國では貧乏人の子が市の馬車で送迎されるのである。どうも變なことをする樣であるけれども之れは決して贅澤でも何でもない、斯くして此等の兒童に普通教育を授け、裁縫其他の職業教育を與へると、七八年國家が馬車賃を出す事によつて、一人で食つて行けるやうになる、英國では日本の樣に家族主義でなく自主獨立の國であるから、食へないと云つて親兄弟の世話になる譯に行かず救貧院に這入る外はない。そこで先に六七年馬車賃を拂ひさへすれば、後に三十年四十年、乃至五十年も救貧院で養ふといふやうな事をしなくてもいゝといふ事になる。一見馬車の送迎が極めて贅澤のやうに見えて、實は容易ならぬ國家經濟である、といふやうな處に目をつけて來た。之れは英國の偉い處であると思ふ。

（三）雛の水中に入るを驚く教育家

男女問題も、茲に私は眼を着けなければならぬと思ふ。今日廢娼運動をやつてゐるのは、そら火事だといふので消防隊で消してゐるやうなものである。それはいゝ事である、併し乍ら火事は如何に消防隊の活動が目覺しくとも、未發に防ぐことは出來ぬ、燐寸箱のやうな家を建てゝゐる間は火事はいつ迄もある、これはどうしても根本的に煉瓦とか石とかに改造をするでないならばいつ迄も迷惑千萬な江戸の花が咲くに相違ない。それと同樣に公娼制度といふものも、これを破壞

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

して完全に下水工事を施して人の眼に見えないやうにしなくてはならぬけれども、それ丈ではいつ迄も藝妓とか其他色々な密賣淫は絕えない。我々は更に根本に遡らねばならぬ。根本の問題は男女間の道德を高める事である、熱心な宗教的に進んで男女を作るといふことも根本的である、此意味に於て亦日本に宗教の必要がある、今日迄國家は宗教と教育を全然引離して置いたのであるが、漸く宗教の力を借りなければならぬといふ事に氣がついて來た、文部大臣なども宗教は大賛成であるといふてゐる。私は佛教も尊敬する、けれども男女問題になると佛教はどうも嫌厭たらざるを得ぬものが多い、茨城縣の或寺は女郎屋によつて維持されてゐる、斯ういふ類似の例はいくらもある。併しそれは佛教が惡いのではない、僧侶が惡いのであるから佛教家も根本に返つて、宗教家はすべて男女問題に提携するやうにありたいと思ふ。

今日の日本は非常に混亂の時代で、男女關係なども亦頗る自由な考が起つて來た。自由解放とか、自然主義とかいふ聲を頻りに聞く、人は自然に發達して行かねばならぬといふ、それは好い事であるが、動もすると其自由を履き違えるものがある。肉の解放などゝいふものは、その甚しきものである一方にはまた男女の事を非常に嚴格に考ふるものがある、女は丸で男のことなど考へない樣にせねばならぬとする者がある。けれどもこれも餘程問題は遠いのである、男女關係は引離す事は出來ぬ、どうせ合ふべきものを引離すやうな教育をするのは誤つてゐる。さうでないと合ふ時にどういふ心を以て合ふべきか分らない、我々はこれを指導しなければならぬ男女關係を話すなといふやうな考を以て、引力に逆らはうといふのは無駄な努力である。女學校の教員にはどうも斯ういふ人が多いやうである。雌鳥が雛の水中に入るのを見て、驚き悲しんで止めやうとする、けれども何ぞ知らんその雛は水中に這入るべき性質を有つてゐたのである。今の女子教育家には斯うした雌鳥の心を持つたものが多いのを悲しむ。

（四）戀愛と「生の樂しみ」

私は人間の目的といふ處から此問題を出立したい。私は人間の目的は幸福を求めて居ると思ふ。幸福說は昔の倫理學であつて、今日は古いといふかも知れぬ。それならばこれを現代的の言葉に言ひ代へると「生の樂しみ」である、かういふと餘程ハイカラに聞える、けれども實は昔の幸福說と同じである。これは私は決して反對しない、男女問題も樂しく愉快に幸福な生活を送つて行かうといふ處に出立點があるのである處が此の幸福を求めやうといふのに色々の誤解がある。食慾もこれを滿足せしむれば愉快がある、然るに此愉快にも二通りある、子供の時は量で滿足してゐる、三つと四つとあれば三の方が好くても四つの方を取る、大人になると量に限りがあるから、どうしても質を取るといふ事になる。旨い物滋養になる物と吟味する心が起つて來る、卽ちこれに依つて之を觀るに何でも食べさへすればいゝといふ處に幸福はない、一番いゝものを食べるといふ處に「生の樂しみ」があると思ふ。此關係を以て男女關係に及ぼすは、多少躊躇する點があるけれども、露骨に云へば男女が結婚するのに二つの方面がある一は戀愛であつて他は性慾である、これは二つに分ける事は出來ないがたゞ方面が二つあると私はする。今私は大膽に云

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ひたい、今日の宗教家や教育家はこゝ迄突込んでゐるかどうか、私共は戀愛に於て眞の滿足があると思ふ。肉を漁つて居るものには誠の幸福はないのである。乍併二つとも得るといふ事は容易でない、或人は若い時分に充分肉慾を漁つてゐたが、飜然悔悟して精神的に這入つたといふ樣な事をいふけれども、私はそれを疑ふ、さういふ人はほんとうに自分の妻を愛する事は出來まいと思ふ。若い時分に戀愛の心を知らないで肉慾に耽つて居たものが、眞實に戀愛の幸福を樂しむ事が出來るかどうか、私は疑ふのである。

私は男女問題に就て破壞的に云ひたくない、私は男女關係に就て幸福を追求する。そこで其の幸福は性慾にあるか、戀愛にあるかを今說かねばならぬ。

而して今日それを說く人ありや、今日の人は何故口を噤んで說かないのであるか、此の人生の大問題を押し退ける譯には行かぬ。私は性の牽引を戀愛を求むる方に指導するなら恐るゝに足らぬと信ずる、今日風儀が亂れてゐるのは戀愛と肉慾を混同してゐるからである。量を持つてゐる事を喜んで質を取らぬからである、質とは何であるか、卽ち戀愛である。こゝに戀愛を說く敎育の必要がある、外國の文學を見ると泰西は實に羨しい、日本人は戀愛を味ふ敎育を有つてゐない。性慾から起る花火みたやうな戀愛は隨分あらう、心中するも構はぬといふのは如何にも熱烈のやうであるが、それは眞の戀愛ではない、今一つ二つの例を擧げて見たい。

《五》美しいア、ビングの戀

スケッチブックと云へば日本でも中學の敎科書に用ゐられて隨分名高いが、其著者なる亞米利加のワシントンアービングに、實に美しい逸話がある、私は此人の傳記を讀んで非常に感動し、私の男女關係を定むる元となつた位である。

アービングは一代の文豪として世界に盛名を馳せたばかりではなく、一角の政治家であつた。全權公使として西班牙に駐剳してゐた事もあつた。六十何歲の高齢を以て歿しだが、彼は終生約束した婦人が死んだために獨身で送つたのである、それには斯ういふ話がある。アービングの或先生が一人の娘を殘して死んだ、娘は父に別れて生活の困難に陷つた、それをアービングの母は同情して自分の家に引取つてアービングと共に生活して居つた。此婦人は舞踏が非常に好きで又上手であつた。芝居があつて舞踏などがあると非常に行きたがる、行つて自分も踊つたりする事があるので、アービングは一切さういふ席に行かせないやうにして居つた。或時孃は途中で非常に心配さうな顏をしてゐる友達に出會つた。どうしたのかと聞くと、私はあの芝居に出て踊らなければならぬが、母が急病だといふ知らせがあつたゝめ看病に行きたいと思ふ、けれども座主が矢釜しくつて欠勤が出來ぬから、どうしたらいゝかと思つて悶えて居るのだといふ、それを聞いた娘は大に義俠心を起し、いやさういう譯ならば私が代つて踊りませう、さうしたら座主の方の責めも免れるでしやうから、貴孃はすぐに阿母樣の看病に行く事が出來るでしやうといふと、友達は非常に喜んで座主に話をして娘は舞臺へ出る事になつた。さて愈々衣裳を着けて踊つて見ると觀客は非常な喝采を彼女に浴びせた、彼女は大成功を以て密に滿足して家に歸つたが、運も運、此席にアービングが來て居つた、舞臺に現はれた彼女を見て喫驚した彼は、娘が歸つたらうんとおこつてやらうと待構へて居つた。とも知らぬ孃は素知らぬ顏して歸つて來た處を、「彼程に堅く止めて置いたにも拘らず又行つたな」と頭から怒鳴りつけられ、實は友達の急病の爲と辯解しやうとしたが、アービングは疊みかけて矢繼早に怒り責めたので、孃は何にも曰はず、自分の部屋に驅け込みさまに鍵を下して、わつとばかりに泣き伏した。ところが翌日になるとどうしたものかいつ迄經つても出て來ない、不思議なことゝ調べて見ると、本人の姿は見えない、そして其所には一通の書置があつた。さてはと轟く胸を押へて讀んで見ると、昨晩の事に就ては申譯があるけれども、兎に角貴下の仰せに背いたのだから、私は出て行きます。併し

日頃の御恩は決して忘れませぬといふやうな事が書いてあつた。

斯うして四五年は經つた。其後アーピングは伊太利亞の 客舍に於て 熱病に犯されて、幾日か死生の間に彷徨ふた、然るに誰か每日來て非常に親切に介抱して吳れるものがある。アーピングの病の輕快して意識が明瞭になつた頃はどうしたものかぷつつり來なくなつた。誰であるか色々調べて見た。年若い婦人だといふだけであるから、中々其宿所を探し得なかつたが、漸くの事で突きとめ、早速面會を求むると、女中が出て來て、誰方かの看病にお出になつて居た爲め、其熱が染つて熱病で寢て居らつしやるといふ、それは大變だと導かれて病室に通つて見ると、驚く可し實に其婦人こそ例の婦人だつたのである、二人の喜びと悲しみは想像に餘りあるが、時旣に遲く、幾何もなく某嬢は遂に此病に仆れた。

ア、ピングは天に慟し地に哭した。そして此婦人に對する熱烈な彼の情愛は、一生他の婦人に想ひを移す事が出來ず、獨身で生涯を終つたのである。

（六）快樂を味つて幸福を知らず

此の話を讀んだ時に私は何とも云へぬ心になつた、私は男女が戀をする時に何故一生懸命になつて、或人に打込む樣な戀愛をする事が出來ぬかと思つたのである。

此頃新聞を見ると亞米利加でも、所謂自然主義で面白くないものが大分流行つて居たが、此頃になつてまた新しい思潮が起りかけた。亞米利加の詩人のロングフエローにエバンゼリンといふ奇麗な詩がある、これは奇麗な男女の戀を歌つたもので、それを今四幕か五幕かの芝居に脚色んで非常な人氣を拍して居るといふ事である。私は何故日本にも斯ういふ美しい戀愛を傳道しないだらうかと思ふ。私は男女の關係を思ふに、他に方法はない、之れに對する考を高尙にする、それが幸福である、さういふ戀愛を有ち得たならこれ位幸福はなからうと思ふ。私は藝娼妓などに接して極めて放埒な生活をする人を見て、決して幸福なる生活と認むる事が出來ぬ其人は快樂は味つてゐるであらうけれども、戀愛から來る眞の大なる幸福を知らぬのである。私は青年男女に向つて擇らず戀の福音を說き度い。私共から此のものはどうしても拔き取る事は出來ぬ、拔き取られぬものならば、品よく着るやうにしなければならぬ、だらしなく着たくないのである、高尙に品よく落ついた着物を着たい、花火のやうなワイ／＼騷ぐやうなものは着たくないのである。

私は世の中の人々は快樂を味ふ事が出來ても幸福を求める事を知らぬと思ふ。そして彼等は非常に强烈な刺激的なものでないと幸福に感じない、私自身の趣味からいふならば靜に音樂などに耳を傾けて居たい。嘗て伯林のフイラモニーといふ處で靜に落ち着いた樂を聞いて、能くは分らないにも拘らず實に高尙な愉快な感を覺えた事がある。或人は太鼓などでどんどん叩いたり踊つたり跳ねたりしなければ愉快に感じない、斯ういふのは快樂ではあらうが幸福ではないのである。若し快樂を以て「生の樂しみ」をいふならば、快樂で堪らないのは阿片を喫む事だらうと思ふ。之れを一度のんだが最後命を取られてもう止めることは出來ない、いふに云はれぬ快樂を得るのであるが、併し乍らそれは決して幸福ではない。酒を飮むとか阿片を喫むとかいふのは快樂であつて落ちついた幸福ではない。文學者が「生の樂しみ」といふ事はあるだらうと、肉の喜びに耽溺してゐるけれども、私はさうは思はぬア、ピングの樣な戀愛、他の人に思ひを寄せられない程の戀愛にほんとうの幸福がある事を確信する。ア、ピング其人に

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

とつては無限の幸福であるに違ひない、寂しい幸福かも知れないが、眞の幸福であると思ふ。

《七》女子の經濟的獨立の必要

最後に、女子の墮落については婦人自ら根本的に取るべき道がある、婦人が賣淫婦などに墮落して行くのは、女自身の罪でもなく男の罪でもない、つまり社會が負ふべき罪であるが、婦人が若し正當な職業に從事し、獨立して食つて行けるなら、何しに藝娼妓などにならう、女が自分で食つて行く事が出來るなら誰も這麼淺ましい事はしないと思ふ。社會學者は彼等の發生は大部分は金がない點にあるといふて居る、そこへ男子はつけ込むのである。根本的に解決するには婦人が生活の安全を圖るにある、自分の生活を自らして行くにある

婦人が職業に從事するのは善いとか惡いとかいふ事を論ずる者がある、けれども之は善惡の問題ではない、婦人が當然有つて行く可き權利であると私は云ひたい。婦人の職業は家庭を破壞するといふ樣な僻論は、女が男の弄び物になつてゐるから出るのである、女が奴隷扱されるのは女が獨立して行けない點に根本的原因がある、女が結婚をしやうと獨立をしやうと其麼事に關係はない、男でも自分で獨立して行けないものは操を賣る、帝國議會でも議員が買收される、金がないといふ時は實に人格の上に危險の迫つて居る時である。

女はいつか嫁に行くからそれで終りだと思ふと誤である。婦人は男子に對抗する爲ではない、いつでも獨立する丈の腕前を有つて居る事が必要なのである。男が女を踏み付けにして不品行を止めないならば離婚して了ふのである、離婚は敢て望む處ではないけれ共、我儘を制する事が出來なければ止むを得ぬ。離婚は己れの人格を維持する最後の手段である。

猶太人は昔から男にはそれ／＼職業があつた、保羅の樣な身分の者も天幕を造る職業を持つて居つた。女も何なり必ず職業を持たなければいけない、而して戀愛をする人と一緒になればいゝのである。職業に從事してゐると友達から笑はれるといふ者がある、併しそれは孰れが笑ふべきか事理極めて明白である。一人前の女になり得ずして結婚するこそ誤である、群馬縣は其點からいふと女の職業が多く、養蠶其他製糸事業に從事するから間違が少い筈である。日本全國斯ういふ風になると僅の前借で身を賣る必要がなくなる、のみならず婦人が男子に向つて貞操を要求する事が出來る樣になる。今日の婦人は經濟上獨立するだけの腕がなく、男子によつて生活してゐるから、男子の玩弄となり、私も貞操を守るから貴方も貞操をお守りなさいと要求する事が出來ない。而して甚しきに至つては自分の家庭に迄賣春婦を引込まれる樣な大汚辱を蒙つてゐる。斯ういふ時に如何なる處置をとるか、實家に歸れば兄さんに他人扱ひにされる、獨立するには腕がないから、止むを得ず涙をのんで屈從せなければならぬ事になる

男女の風儀問題に就て語るべき事が多いが一言誤解を防いでおきたいのは漁色を天慾とする考である。性慾は天性ではあるが、乍併多くの異性に接するのが天性であるとは云へぬ男女が一人づゝ相對するのが私共の天性とする處である。私共は無益な戰ひをして居る者ではない、遂には進んで貧乏すら根絶せしめ得るとする學者さへ出てゐる、私は男女問題もいつか根本的に美しくする事が出來るといふ事を確信する。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

眞先に廢娼を斷行した伊香保

前代議士　木暮武太夫

明治十五年群馬縣令が廢娼令を公布して世論轟々たる中に、五ヶ年の期限をも待たず直に率先して公娼を廢止したるものは伊香保町である、而して之れ實に前代議士木暮氏の盡力の爲めであつた。されば氏は二十年記念會にも出席されたのであつて、此記念號から亦逸する事の出來ぬ人であると思ふ。記者は伊香保の別業に氏を訪ふて當時の感想を叩く、氏は信越の峻嶺より赤城足尾の連山を一眸の下に集めた雄大なる景色を背に、揺り椅子に凭つて温い午後の日光を浴び乍ら語られる。

○一時は絶交同様

元來私の家は極めて斯ういふ問題に嚴格な家風で、此中に育つた上、私は慶應に學んで福澤翁の感化を受け、歸つて見ると當時のハイカラであつたからすぐに此の貸座敷が眼についた。

十六年に廢止を自分が迫つた當時の伊香保の貸座敷は、十一軒あつたがすべて温泉旅館の兼業で、其上農業までもかねて居つた。私が貸座敷業者を説服壓迫して廢止せしめたに就ては、其當時大分憎まれた。半年位の間は殆んど絶交同様の姿であつた。けれども其後温泉が繁榮に赴くに從ひ、私のやつた事を段々却つて感謝する樣になつた。今日の伊香保は當時から見ると約十倍の發達を來して、戸數は五百、一年間の浴客の延人員二十四萬人に上つてゐるから、先づ日本第一である。海拔三千尺の高山に電車を敷いてからといふものは東京から一日で往復が出來る程の便利になつて、益々繁榮してゐるが、御承知の通り温泉地としては當地は至つて風俗のよい方である。

伊香保が公娼を廢止した結果どうなつたか、土地の繁榮とどういふ關係を見出す事が出來たか、風俗がどんな影響を受けたかといふ事に就て、是非一言する必要がある。

よく世間でいふが、貸座敷は噴火口のやうなものである、性慾をもらす爲には斯ういふ機關を設けないと非常な危險がある、這麼事が深くも考へず信ぜられてゐるけれども之れに全く嘘である公娼などがあると却つて淫風を挑發煽揚する。淺草が其一例である、現に吉原の側に淺草がある事は避雷針の下に雷が落ちてゐる事である、否々吉原の廓内に落雷が落ちてゐる。お茶屋は賣淫所ではないか、おでんや其他の屋臺店に賣淫婦が多いといふではないか、斯うなつて來ると、避雷針だと思つてゐたのは避雷針ではなかつたといふ事が明瞭になつたのみならず、一歩進んでそれは招雷針であらうといふ事をも考へられ得るのである。

而して其反對の方面から伊香保町は又之を證明した。卽ち伊香保が公娼を廢した結果は私娼も起らず極めて善良なる風俗を維持する事が出來たといふ點である。

○附近の農家は大喜び

一方繁榮の方面から見ても、女郎屋の樣なものを設けて金の落つるのを待つといふ、そんな不健全極まる經濟があるべきではない。温泉の方から云へば客は病氣も治さず女郎を買つて金ばかり使ふから『いやどうも伊香保は金がかゝつて困る』なんどゝいふ、湯には這入らず女郎ばかり買つて居た癖に、家に歸つて斯ういふ汚名を着せる、女郎を追拂つてからいふ汚名を拭ふ樣になつた一點だけでも伊香保の繁榮がある筈である、果然伊香保は健實に大發展をなしたのである。

而して附近の人が何と云つたか、老人などに出會ふ毎に『お蔭で息子や作男どもが眞面目に働くやうになりまして、助

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

かります』と喜んで禮を述べてゐた位であつた。それ迄は瀧川町や其他近所の若者共が、皆女郎買に伊香保にやつて來たものである。斯ういふものがあるとやつぱり買ひ度くなるのが人情で、隨分遠くからも寄つて來た、そして夜通し遊んで朝早く歸つて、何喰はぬ顏して畑に出ては物蔭で晝寢をやつてゐたものであつた。處が女郎屋を廢止してからといふものは、さういふ事がぱつたり止んでしまつたのである。行くにも行く處がないから止めない譯には行かなかつたのであるそこで馬鹿な金も使はなくなり、自然眞面目に働く樣になつたから、若い息子や作男などをもつてゐるものが禮を述べるに至つたのである。

○三越ゃ白木の萬引の心理

スペンサーがよく云つた、人も周圍の事情に餘程支配される、木が土中にあると根となり、空氣の中にあると幹となると如何にもさうである。貸座敷などゝいふものがあるから遊び度くなる、誘發されるのであるが、無ければないで濟まされる。だから三越や白木がたゞで下駄迄預つて公衆を引入れて見せてゐるのである。此の心理作用の弱點を應用したのが三越などの陳列なのだ、色々の設備をして眼の前に見せつけると、無くて濟ませるものでも欲しくて堪らなくなる、買ひたくなるのを通り越して萬引迄もやる立派な貴婦人があるではないか。貸座敷も正に此理である、二階の欄干に赤い夜具や如何はしい着物をひつかけ、したらない風をした女郎がぞろ〳〵して見せつけると＝當時は町を歩いてゐた＝つい誘導される。

廢止した當時は娼妓の數が此狹い處に五六十人も居つたのに、廢止して見ると一向之れに代るやうな私娼は出なかつた伊香保迄遊びに來てゐた連中は、女郎の廢止によつて確に純潔が維持されるやうになつたのである。公娼も私娼もなく、良家の子女に危害の及ぶ事のない處が、却つて近村の風儀は改まつて、眞面目に自己のそれ〳〵の職業にいそしむ樣になつた。之れ實に公娼制度の根底を事實上から見事に打破したものに非ずして何ぞ。

○公娼は羞恥心と道德とを破壞す

伊香保に多少の賣淫婦が出來たのは、十五六年も經つてからの事である、決して其當時代るべきものが必要として出來たものでない事を斷言する事が出來る。而も當時貸座敷に登樓するのは、丁度今日我々が牛屋へでも上るやうな位にしか考へられて居なかつた。何か相談でもあると女郎屋へ持つて行つたものである。それが廢止後の今日は、私娼を買ふ者は極めて祕密に行つてゐる、これ丈でも風儀の上に及ぼす影響は甚大なものである之れは實に公娼が人の羞恥心を破壞し、貞操道德の根底を紊亂するものであるといふ事が出來ると思ふ。

また、若し人は生理上是非娼婦の樣なものが必要であるといふならば、遊びに行く男子は果して獨身であるかといふ事も一の問題になり得る、而も事實に於ては獨身者よりは有妻者の方が多數であるといふ樣なことを聞いてゐる、此事實は明に外圍の事情に衝動されるものである事を語つてゐる。

更に今一つ群馬縣は公娼制度を破壞する爆裂彈を有つてゐる、それは花柳病の問題である、公娼制度論者の論據の主たる處は實に此一點に存する、然るに我群馬縣にありては、始め大分反對して居つた陸軍も今日は全く沈默してゐる、之れ公娼制度を廢止したる事によつて、何等花柳病の蔓延を見ないからである。これ又實は公娼論者の本陣を粉碎するに足る爆裂彈ではあるまいか。

要するに群馬縣の廢娼は、色々の點から世人の迷夢を破つてゐる。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

群馬縣の禁酒郷

記者

安部副會長等の騏尾に附して廢娼二十年記念會に臨んだ記者は、其夜はしなくも此の禁酒郷の主人公宮前右太郎氏と前橋市の鍋谷旅館に枕を並べて眠る事となつた、鍋谷といふは我松宮理事の經營せらるゝ處、同氏の好意によつて茲に一泊する事となり、浴後三人鼎坐して色々話しの末、禁酒村の談が出た。珍らしいと少からず感興を動かした記者は、勞れたるまゝ、二人とも床上に横つて苦心談を聞いたのは斯うでる。

群馬縣は新町と神保原との間を流るゝ神流川の上流を遠く遡つて、御矛山の麓に到ると其處に美しい禁酒村がある、多野郡神川村大字森戸といふのがそれで、本會贊助員宮前右太郎氏が奮鬪によつて一郷十八戸、悉く禁酒を嚴守して種々の美風を生じてゐる村である。宮前氏は一昨年本會の群馬支部を發會する時、村の若者數名を引具し二十里の山道を草鞋がけに踏破して來會し、當時本部より出張せられたる益富理事をして其熱誠を三歎せしめた事があつたが、廢娼運動に對しては實に多年一日の如く盡瘁せられつゝあると共に、一郷を德化して禁酒の美風を起して居らるゝなどは敬服の外はない。

△村の入口に禁酒の制札

同君が禁酒に對する考を起したのは頗る古く、日本の禁酒運動の鼻祖ともいふべき彼の津田仙氏の學農社農學校に學ばれたのに原因してゐる。其後明治二十年頃農業試作場を作り津田氏を聘して禁酒演說を乞ふたのが、禁酒郷の成つた動機であつた。此時起つた禁酒會は神流川二千戸に向つて傳道を開始したのであるが其規則の中には普通の會員の外に全戸會員といふものがあつた。これは一家族を擧げて入會したる會員であつて、宮前氏は熱烈なる運動の結果、氏の部落は一軒殘らず所謂全戸禁酒會員にしてしまつた此骨折は實に非常のものであつた。何しろ僻陬の土地である娯樂の機關としては一つとしてありやうもない。此間から彼等唯一の樂しみたる酒を奪はうといふのである、終日の勞働を了へていざとばかり掬む晩酌の味ひ、芳烈な酒の香に陶然と醉ふ其境は、到底想像も及ばぬ彼等の喜びであるのに、宗教的關係からといふではなく、たゞ酒は有害なりといふ理窟の上から、已の勢力ある地位と村人の悦服せるとに乘じ、無理に壓迫し〳〵、十年ばかりといふものは寸時の油斷もなく健鬪を續け、村の入口には「禁酒、酒類一切入る可からず」といふ制札を立てたりして、色々な手段を講じた。

此の運動は全村に渡つて隨分盛んに試みられたのであつたが、其内次第に運動の中心になつて働いてゐた人々が、他に移住したり物故したりして、樣々の事情の下に一村としては漸次衰微するに至つたけれども、氏の部落のみは今日に至る迄禁酒の美風を續けて居る。

△結婚式に水盃

一郷に禁酒を實行して、最初に打突かつた問題は婚禮の盃である。外の時は兎も角も結婚の式だけは盃を擧げない譯には行かぬ、三々九度の盃事を破壞するといふ譯には行かぬ、まあ婚禮だけは飲むでもよからうといふ說が多かつた。處が第一着に此禁酒郷から出た婚姻は實に氏自身であつたから、氏は斷乎としてこれ等の議を排斥し『好矣、盃が是非必要なら水でやる』といふ勢で、とう〳〵水盃

で三々九度をやつてしまつた、今日ならサイダーとか何とかもあらうけれども、何しろ片山里の昔の事である、遂にこれが先例となつて當時の若者は皆水盃を擧げた。今は其例も止めて盃事を省略する事になつてゐるさうである。

それから又村の人が他村の婚禮に行くと勢ひ飲まされる、嫌ひで止めてゐるのではない、所謂下地はすきなり御意は好し、勸められるまゝに飲む、處が今度はそれぢや他村の者がこちらの婚禮などに來た場合はどうしたらいゝかといふ事になる。向ふに行つた時は飲んで、こつちに來た者に飲ませぬ譯には行かぬ。そこで向ふから來た者だけに飲ませる分には差支なからうと考へて、或時結婚といふので酒を用意したといふ話が、氏の耳に這入つた。それはいかぬといふので氏は早速二三の人と共に其家に行つて、それでは前の約束と違ふ、酒は如何なる場合にも一切使はぬといふのが我々の主義ではないか、一滴でも酒を用ひるなら媒酌人を立會せる事は出來ぬと申込んだ、媒酌人が立會はぬでは式が擧げられないから、酒は全部返して了つて婚禮したなどゝいふ様なこともあつたといふ。今日は既に三里五里の外迄聞えてゐるから他村へ行つても酒を勸められる事もなく來て飲まうと考へる者もない様になつた。

永い間にはどうかすると他から來て怪しい飲食店を開業するものもあつた。斯ういふ時には面白い、氏は村の若者を引連れて客の風を装ふて押上り、皿を叩き壞すやら窓を打破るやらして營業の妨害をして居堪らなくなつて逃げ出す迄亂暴するさうである、記者が『そいつあどうも猛烈ですね』といふと『さういふ時には田舍の有難さ、別に問題にもなりませぬ』と云つて笑つて居られた。

△禁酒が生んだ美風

禁酒の結果はどういふ風な影響があるかといふと、第一集會の時間が非常に短くなつた。要件がずん／＼片がつく、長い時間かゝつて酒をのみながら、小田原評議をなし結局不得要領に終るのみか、目出度い席に喧嘩騷ぎを見るのが酒の常であるけれども、此村には喧嘩といふものが全く跡を絶つた。一郷極めて平和に風儀はよく二十年未だ一人の犯罪者を出した事がない。慈善事業等には眞心から力を注ぐし、互に相愛して團結の力が非常に強い、共同一致の事業などになると頗る成績がよい、たとへば村の仕事を割り當てるといふ様な場合に、此部落では配當を受けた額はすぐ出來る。

村には部落が十一あるが氏の部落が其最も小なるものである、村に自彊會といふものがあつて、伊豆の模範村稻取村に習つて青年部、中年部、耆老部、處女部婦女部といふ風に分けてあるが、一年に二度位運動會などを催し、農業上の技術の競技とか女ならば裁縫とか其他の競爭をやる事になつてゐる、これは個人々々の競爭ではなく、部落々々の競爭で會員全體の得た總點數を合せて優勝を定むるのである、そして男女の優勝旗が出來てゐるが、氏の部落はよく優勝旗を取るさうである、今年も青年部が最優等で處女部は第二等を取り、昨年は男女とも優等を取つたといふ。他の部落にありては人口が多いから多勢の中から選手を拔擢する事が出來るけれども、氏の部落は人數が少いから勢ひそんな選拔などは出來ぬ様になるといふ不利な狀態にあり乍ら、優等をとるといふのは、共同一致の精神の然らしむる處で、禁酒から延ひて及んだ美風であらうと思ふ。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

群馬廢娼二十年記念會の記

記者

△記念大演説會

一月二十四日午後一時、前橋市教會堂に於て、前號に廣告して置いた如く、群馬縣廢娼二十年記念會が群馬青年會並に本會群馬支部聯合主催の下に開かれ、本部よりは安部副會長、油谷、松宮の兩理事とこれに記者が隨伴して出張する事となつた。定刻になるや、嘗て前橋市會議長たりし時公娼設置案が多數を以て同市會を通過したるため、斯かる醜陋なる決議を余の名を以て建議するに堪へずとして、直に議長の重職を弊履の如く一擲して復起たざる我群馬支部長德江亥之助氏は、破るゝが如き喝采を浴びて登壇、別項記載の如き開會の辭を述べ、次で廢娼運動の急先鋒として最も眼覺しき奮戰をなし、常に淸議の指導者となりつゝある賛助會員前縣會議員森川抱次氏は「當時に於ける青年の意氣」と題し僅に二十四五を頭に、十七八歳迄位の青年が、辨當を腰に草鞋を履き、沖天の意氣を以て正義のために各地に轉戰活躍したる顚末を縷說して聽衆を感奮せしめ、同じく本問題のために終始一貫、最も熱誠に努力せられたる賛助會員宮前右太郎氏は、拍手の裡に本會大阪支部、富山支部、京都支部、山室軍平氏、矢島楫子氏其他より寄せられたる祝電を朗讀し、次に當時に於ける縣會議長として、廢娼運動の主盟となり輿論の指導者となり劃策力戰せられたる我評議員湯淺治郎氏、態々東京より來會して急霰の如き拍手に迎へられて登壇し、別項所載の如き一場の懷舊談を試み、同じく公娼盛返し運動に對し惡戰苦闘の功勞深き我理事松宮彌平氏は、別項の如き本會顧問大隈伯爵並びに會長島田三郎氏の祝詞を朗讀し、續いて理事哲學博士油谷治郎七氏は「廢娼後の群馬縣人に望む」と題して、該博なる知識を傾けて縱横に公娼私娼の問題を論じ、最後に副會長安部磯雄氏は「公娼廢止後の大問題」てふ題下に、一時間餘に渉る大演説を試み(別項參照)聽衆に多大の感動を與へ、大喝采の裡に五時閉會した。

當日は恰も同市の市日にて如何あらんかと氣遣つたにも不拘非常なる盛會にて十里二十里の汽車の便なき遠方より來會する熱心家も少からず、多野、勢多、佐波、群馬、新田、碓氷、山田、甘樂の縣下各郡より代表的人物來會し、岸本警務長を始め、木村前橋市長、大塚同助役、木暮前代議士、其他前縣會議長、前前橋市長、縣會議員、市參事會員、市會議員等頗る多く、滿堂の盛況であつた。

△關係者有志者懇談會

同五時より引續き、關係者有志者の懇談會が開かれた、出席者は(順序不同)

安部 磯雄氏	油谷治郎七氏	湯淺 次郎氏
岸本 警務長	德江亥之助氏	松宮 彌平氏
大和重太郎氏	大澤 虎雄氏	戸谷清一郎氏
正田虎四郎氏	青柳 新米氏	桑島 定助氏
田村作太郎氏	高橋駒次郎氏	宮前右太郎氏
柴田 清策氏	杉山 勇司氏	金子 尙雄氏
野口 末彦氏	宮内 作平氏	大森峯太郎氏
森川 抱次氏	宮崎鉄三郎氏	伊藤 秀吉氏

の諸氏にして、或は懷舊談を試み、或は警務長を捕へて昨年の盆踊は面白くなかつたとて今年は適當の取締を望んだり、或は安部氏と岸本氏との間に風俗取締の說明がある等、懇談に時を移し、晩餐を共にし八時散會した。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

藝妓の跋扈と家庭の婦人（二）

鳩山春子

（五）男子の優者たりし習慣の餘弊

第一、情慾を抑制することが出來ない處に賣笑婦の存在がある事は誰も否む事の出來ない自明の事であります。一言にして盡せば賣笑婦は、生理的關係と經濟的關係の二つより成り立つといふ事が出來ませう。經濟的方面から救濟防禦の方法を講ずる必要は無論あるのですが、それは暫く措き、生理的關係、即ち情慾の方から見ますと、人は決して自己の情慾を恣にすべきものではない、適當に抑制して行かなければならぬものであります英雄色を好むなどゝいふ言葉がございますが、これは英雄は偉大なる其活力の餘る所から斯ういふ缺點に陷るのでありまして、これは實に英雄の瑕疵であります何人と雖缺點のないといふ事は困難な事ではありますが、英雄とか豪傑とかいはれる人達は、自分の權威を以て他人の自由を奪ひ得る處から、自然慾望を壓抑する事が困難となつて、放縱に流れるのであります。それを凡夫が眞似るに至つては沙汰の限りと申さねばならぬ。故桂公の如きも家庭の內外に此動物を近けられましたが、若し斯ういふ事がなかつたら一層偉大な方として尊敬せられ、世の中にもつとお盡しになる事が出來たでしやう、それを凡人は桂公だつて斯うぢやないか、といふ樣な事をいふ、自分が桂公のやうに社會的に盡す一面があるならまだ多少恕すべき點がある――相殺すべき性質のものではないが――けれども己れは何も社會に貢献する處なく、人類の進化に何等の益する處なき身を以て、その缺點のみを眞似るなら、其人は社會に唯惡影響のみを與ふる者でありますから國家としましても人類としましても、そんな者は極力排しなければなりませぬ。斯麽風に東洋では英雄色を好むなどゝ申して格別の罪惡としない、男子の節操は寛大といふよりも無羈束でありますから情慾を抑制するといふ事をしないのであります。西洋邊りでも、男子は其妻が姦通したとすればそれ丈で離婚の條件となりますが、女子からは其夫が他の婦人と關係したといふそれ丈では離婚の訴訟を起す事は出來ぬ、自分を虐待するといふ樣なことが附隨してゐなければなりませぬ。こんな風に西洋にあつても男子の貞操は寛大でありまして、或程度迄社會が容認してゐますから、獨身者は勿論有妻の男子も自然動物に接することになります。女子が貞操を尊むべきは申す迄もございませんが、同樣に男子も亦重んずべきでありますのに、今日迄の習慣、男子が優者であつた處から來た習慣は、情慾の抑制を困難ならしめて、斯ういふ者の發生存在の理由となりました。

（六）女子教育の必要

第二、は婦人の人格が認められない。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

婦人は男子の玩弄物であるといふ樣な思想をいふのであつて、第一と關連して考へられるのであります。卽ち情慾を抑制する事が困難と致しましても、婦人の人格を尊重するならば、その節操を蹂躪するが如き非人道の行爲は出來ない筈でありますが、女子は男子の從屬、慰み物であるといふ謬想と結びついて、男子を放縱ならしめ、藝妓の需要が起ります。

けれども此點は歐米と我國とは非常な逕庭があります。米國などは寧ろ女尊男卑に近く、先達ても一郞が汽車の中で西洋人の夫婦と一緒になつたとかで『彼麽でもいけませんね、全然夫は小使ですからね』と申しますから『尤も內に居る時よりも外に出ると女を餘計にいたはる樣ですよ、これは女は弱い者ですから、其弱い者に重い物を持たせたりする事を男子の耻辱としてゐるからです。併しそれをいゝ事にして、一寸窓を締めて下さいとか、何でもない事に男子を使ふのはよい事ではありません』と話を致した事でございました。往年鳩山に同伴して米國に參りました時、鳩山の友と私共と三人で馬車に乘りました時、其友人は私に『窓を開けても宜敷うございますか』と申しますから『自由にお開けなさい、少しも差支ない』と答へますと、其人が大さう喜びまして、私の國の女はなか〳〵窓を開けさせなくて困る、お國の御婦人はほんとに自由にして下さる、などゝ禮を申しましたが、兎も角も西洋の女は充分に解放されぬ處があるとしましても餘程重んぜられてゐますのに、日本はと申しますと經濟上の關係や何かで、最大多數の家庭に於ては妻は信用のおける下婢として取扱はれてゐる有樣ですから、奴隷に近い女子、幾段も劣つた女子の節操を蹂躪する事を罪惡とせぬのでありませう。男子が婦人の人格を認めないといふ點は、男子からのみでなく女子自らも自分を卑しめてゐるから、金錢の爲に己の肉を鬻ぐ樣な女を生ずるのであつて、此點は女子敎育の必要といふ事が見出されるのであります。

〔七〕藝妓は愛情の空虛に乘ずる

第三、は夫婦の愛情であります、之は先づ男女が互に其人を解せずして結婚する處に缺點がありますが、それは第七の男女交際論に讓りまして、一體今日の男は學問のある女よりも、學問のないのを求める、學問があれば自然理窟を云ひ易い、事物に當つて相當の識見といふものがあるから、それが動もすると唯生意氣な者になつて了ひますから、此節は寧ろ學問のない柔順な者を、といふ事になつて參つたのであります。美貌といふ事は、やはり重んぜられますが美人の標準も大分變遷するもので、之は或外國の書物にあつたのですが、昔の婦人美の要素は、

（一）部分の調和　（二）輪廓の整頓
（三）形狀姿勢の高雅　（四）容姿の端麗
（五）表情の冷き事、

であつたのが、近世の婦人美の要素は、
（1）愛嬌　（2）快き辛味(Piquancy)を有する事　（3）才智　（4）情熱　（5）快活　（6）形狀の豐かなること
であると書いてありました。之が直に日本人の嗜好に適合するかどうかは存じませぬが、男は柔順な者をと求め、女は學問がある爲め地位ある者を求め、段々結婚が困難になる上、經濟上の壓迫は自然男子の結婚を後らせ、中流社會の結婚は漸次六ケ敷なり、結婚の條件は物質的欲望――少くとも生活といふ問題と結着かつて、兩者が唯金のある者、位置のある

者をと望む事になつた。一體上流社會は金の自由があるから自然惰弱に流れ、下層社會は動物に近く、國の元氣興廢は實に中流社會にあるのでありますが、斯の如く結婚は困難になつて、物質的慾望から來る結婚のみふえ、一方には離婚が著しく增して來るといふ現象を呈してゐるのは注目すべき狀態であります。

・斯うした結婚の結果はと申せば、双方が人格に重きを置かないために互に理解することも出來ず、二人の者が融和する渾然一になるといふ樣な事が望まれず、夫婦間の最要件たる愛情が充分に湧かないから、お互に何か物足らぬ、何か空虛な處があるやうな感じがある、それがやがて藝妓跋扈の一因となるのである。

（八）男子の相談對手になれぬ

第四、慰藉者として妻の勤めが足らないといふこと、これも第三第七と密接な關係を有つて、男女交際といふ事が行はれなかつた結果、男性を識る事がないといふ點に出立してゐる。次は女子教育の普及發達してゐない爲に、女子の才能が養はれてゐない。激しい生存競爭場理に角逐して殺伐になつた男子の心は、家庭に入りて女子の溫かく柔い心によりて和らげられねばならぬ。男子が飢ゑた乾いた心を以て家庭に這入る時に與ふるものは優しく美はしい愛の泉であらねばならぬ。斯くして男子は玆に休養し、玆に活動の力を培ふのである。否更に一歩を進めて女子は常に男子の慰藉者たるに止まらず、男子の好伴侶として、最も誠實なる相談對手とならねばなりませぬ。

然るに今日の婦人は御飯を焚く事と着物を縫ふ事より外に、男子を慰藉すると云ふ道を知らない、女子の人格が認められなかつた結果女子の教育が閑却せられて居つたから、到底男子の相談相手たるだけの智能がない、せめて男子の乾いた心を濕す愛情があれば結構ですが、それも覺束ないので男子の心には充たされない空隙が生ずる、それを偶々人に誘はるゝか何かして藝妓のやうなものに接すると、堂奥を極めた彼等の技巧は、今迄求めて得られなかつた空所を、堤を決した樣な勢で充たして來るから、遂に家庭を顧みないといふ樣なことになります。

（九）怨みを云ふ妻と面白い藝妓

第五、妻の嫉妬より起る反感から、益々男子を放縱に導く事はいくらもあります。嫉妬は女の愼しむべきものたることは古來から說かれてゐる處でありますけれども、凡そ女の身に取りまして、何が厭と申しまして夫の放蕩位厭なことはありませぬ。それは貧乏も厭ですけれども貧乏の中にはまだ愛情さへあれば樂しみは幾何もありますが、夫の放蕩にして家庭を顧みない位女にとつて悲しい事はありませぬから、自然この嫉妬といふ事が制し切れないのは無理ならぬ處であります。然るに人情といふ物は妙なもので、夫を思ひ家を思ふ上からの嫉妬も、それを聞かさるゝ本人にとつては甚不愉快な事でありまして、家に歸れば妻の面白からぬ顏を見怨みの言葉を聞かされ、外に出れば至らぬ隈なき歡待を受けて面白く樂しく遊ばせるとすれば、勢ひ男子はよからぬ事と思ひ乍らも深入をするといふ事に陷り易い。心すべきは嫉妬でございます。

（十）閑却されたる姑の教育

第六、嫁と姑の不和も亦男子を驅つて藝妓輩に近づかしむる一因であります。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

私の友達であります或奥様は、出るにも入るにも必ず御夫婦御一緒で、その應接間に來客を迎へられます時にも、きつと御主人の側には夫人が着いて居られる位でありますのに、どういふものか御子息御夫婦に對しては極めて嚴しく、二人を決して近づけなさらない、二人は親しく口を利く事もならない樣な有樣で、とうとう離緣になりましたが、斯うした嫁と姑とが世間には尠くない姑と嫁なら親と子であるにも拘らず、犬と猿のやうに仲が惡いといふのは如何なる譯でありませうか。私は姑として の敎育がないといふ點にあると考へるのでございます。昔から娘を嫁にやる時は短刀を持たしてやつた位で、二度と實家の敷居を跨いではならぬと申す程嫁といふものは矢釜しく敎育されましたが、姑の敎育といふものは更になく、姑は嫁に對して如何に處す可きかといふ道德は一向説かれてありません。嫁が唯服從を強ひられると反對に姑といふものは嫁に對して絕大なる權威を振ふことが出來ないといふ處に缺陷があります。お嫁さんが來ると今迄してゐた自分の仕事が一切今度は嫁の仕事となる、そこで自分の職分が奪はれたやうな氣がする、實權が嫁に移つた樣な氣がする、何だか自分は要らない者のやうになる、同時に用がなくなつたから自然人のすることを批評する餘裕が出來る、斯うして嫁のあらを拾ふやうになるのである。そして自分が多年の經驗は若い經驗のない人のする事が、如何にもあぶなつかしく、もどかしく、愚に見える、從つておせつかいを燒くといふ事になるのです。

斯うなつて參りますと、夫婦仲好くしてゐるのを見ると、何か自分の事を息子に蔭口してゐやうといふ僻みが起つて來る、とう〳〵仲好くするのを忌む樣になる、嫁はいつも舅や姑の用ばかりさせられまして、肝心の自分の夫の用事をする事は出來ない、兩親が眠づた後に始めて自分の體になるといふのが通常であります。這麽有樣では夫たる者が滿足せられ樣筈がありませぬ、家に居つて母親と妻の不和を見、双方のこぼし話を聞かされる樣では不愉快極りないから、なる可く外で面白く遊ばうとする樣になるのです。（つゞく）

暗黑に棲み、生血を吸ふ。
鳥？非ず。獸？未し。噫夫れ人？

●坂本繁二郎氏畫

●娼妓の月給制度

日本國中で最も安樂で且威張つて居る娼妓がある其れは佐渡島で、此島には濱町、寒美壽町、相川町外二ヶ所に遊廓がある 新吉原や洲崎の樣な窮屈な處でなく一ヶ月二十五圓づゝの月給制度で お客が有る無しに拘らず月給を支拂ふので 娼妓はお客を呼込みもしない其れで娼妓稼業が厭やになれば何時でも廢せる。內には亭主持もある 子持もある 樓主は其爲に生活して居るので廢されぬ樣に娼妓を優遇して居るとは最近佐渡より歸京したものゝ直話である。

眞新婦人會の活動

‖東北の饑饉について‖

眞新婦人會同人日向夫人西川夫人をはじめ、尾竹一枝川路歌子女史など其他十數名の發起で、北海道東北の窮民のために左記の日割を以て、要所の街頭に立ち寄附金を集められた即ち

三日、日北谷公園附近　四日、上野廣小路　五日、水天宮前　六日、新橋　七日、三越前　八日、上野公園　九日、尾張町　十日、本郷三丁目　十一日、九段坂上

七日、三越前に行つて見ると、「速に一椀の飯を與へよ、今や北海東北の我が同胞は餓死せんとしつゝ有り」と書いた看板が立てゝあつて、その下にお櫃が置いてある。目もあかれぬ程の風と埃とに吹かれまみれて、七八人の若い夫人達、手づから通りかゝりの人々に主意書をくばつては同胞のため一錢にてもと同情を求めて居られる。機敏な奮闘振とその愛嬌とはさすがに人の足をとゞめしめた。私共は同會の此計畫に對して滿腔の敬意を拂ふと同時に其成功を祈る者であります

西川文子女史談

私共は北海道や東北の窮民に對する同情に堪へかねて、こゝに眞新婦人會の同人が發起となり三日から十一日まで豫定の街頭に立つて、通りかゝりの同情ある方々に多少にかゝはらず寄附を願つて居ります。

毎日十人あまり朝から出まして、――朝九時からとしてありますが、午前中はあまり思はしくないやうですから、大抵十時か十一時頃から始めて居ります。一日立つて居ますと足が棒のやうになりまして可なり勞れますよそれに又風が吹く日などはたまりませんね。何しろ塵が立ちますと目がいたくなりまして、だけれど成績さへよければそんな事位は一向かまひません。

おかげ樣で皆さんが同情して下さいまして大層成績もよろしいんでございます。昨日は新橋の博品館前でやりましたが博品館の内の人も皆で六圓いくら集めてくれましたし、或紳士の方はわざ〳〵やつて來たのだと云つて入れて下さつたのです。又或お婆さんの如きは「私は新聞で今日は新橋だと見たから、停車場の方を先刻から探して居ました」とわざ〳〵來て下さつたのもあります。西洋人の方なんかも一圓二圓と入れてくれました。世間の同情は全く豫想以上です。横濱あたりからこつちの方にも來てやつてくれと云つて下さる方もございます。

五日は水天宮前でしたが、大變な人出でしたよ、けれども警官が親切に保護してくれましたので非常に都合がようございました。

新聞や雜誌の寫眞係が毎日〳〵撮りに來ますの、ですからあなた方はそんなに寫眞をおとりになるなら少し稅金をお出しなさいと申すと、五十錢位入れてくれます。

日向さんの奥さんも毎日居らつしやるのですが今日はお宅の勘定日とかで、多分お見えにならないかと思ひます。私共は皆一生懸命にやつて居ます。同情のある方は顏つきで分ります。

昨日でしたか或方が入れて下さつたのが、入れた積で外に落ちて居ましたのを拾つて行つたお婆さんがありましたよそんな強慾の人もありますが、同情して下さる方が多いので喜んで居ります。

大阪婦人矯風會の活動

林歌子女史より

今年の初陣は如何樣に導かれ候哉と祈居候ひしに、神は天災の火蓋を切り給ふて、櫻島の大爆發に、東北北海道の凶作あり、矯風會は青年會と協同の名儀にて各教會を中心と致し、去る二日三日の兩夜は活動寫眞會を催して大成功。また慰問袋に同情米と古着を集むる準備を整へ活動中に御座候

一昨年の一月十六日の拂曉には難波新地を燒拂ひ、廓清の大運動を致せし當時を思ひ起し申候。廓清大阪支部滿二年の誕生紀念は本月に候儘矢島會頭が本月下旬か來月上旬に關西へ御下向被遊由傳承致候へば、其時を待ちて記念會を開催致さんかと考へ居申候。

今年六月は廓清孤々の聲を揚げて滿三年と相成申候確に順當の經過發育を致せし事を感謝致居候。主許し給はゞ今年の記念會には上京致度存候。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

岡山孤兒院長 石井十次氏を悼む

我國に於ける慈善事業家中の巨擘とも云ひつべき岡山孤兒院長石井十次氏は、享年五十にして去一月三十日午後二時日向茶臼原農園に永眠せらる、噫哀い哉。氏や志を決して慈善事業に一身を捧げ、拮据經營三十年一日の如く、以て岡山孤兒院の今日を致せり。氏の如きは實に慈善界の大恩人たりといふべし。「基督教世界」氏を弔して曰く『人多く氏を英國のジョージ、ミューラーに比す、共に敬神愛人の精神に燃え、信仰を以て終始一貫せる所、寔に東西の好一對たり。氏は獨り偉大なる事業家たるのみならず、精神家として理想家として、主義の人、性格の人、信仰の人として、惜に重きを我邦の精神界になせり。年齒未だ老境に達せず、之より將に活動の眞時期に入らんとして而して溘然として逝く、誠に痛惜に堪えざるなり。』と。

○

氏は慶應元年四月日向國高鍋馬場原村に生る、十五歳の頃笈を負ふて東京に上り、攻玉社に學ぶ、其頃千島樺太の交換事件起り、時事に憤慨するの餘り、岩倉公暗殺論など草したることもありて、鄕里高鍋の或る宿屋に於て二三の青年と之を論じて居たる時、隣室に居たる刑事に聞きつけられて鹿兒島の獄に投せられ、憤慨の極隨分亂暴なることもなしたりしとぞ。夢に無罪となることを見、其が事實となりて、孟子の所謂天の將に大任を是人に降さんとするや、先づ其心志を苦しめ、其筋骨を勞し云々、とあるを思ひ起し萬事を冥々の裡に支配する神あることを認め茲に基督教的信仰の門に入る。

其後岡山に來り岡山甲種醫學校に入學（明治二十年同校は第三高等中學醫學部となる）當時中村敬宇氏の西國立志編を讀み、殊にバウンヅといへる靴屋が數百の貧兒を教養せし物語に深く感動し、夏休みに歸省せるや夜學校を開きて青年の教養に盡力したる事もありき。かくて岡山に於て天主教信者となりしも、岡山組合教會の牧師たりし金森通倫氏に導かれ遂に同教會に轉ずるに至れり。金森氏の著「基督教の三綱領」は石井氏の筆記になりしものなりといふ。

○

醫學校在學中同國人の氏に賴り來りし者あり、氏之を同志社に送り、自分の許に來る學費を其人に送り、己れは按摩をして自給せり、其學資を受けし青年は現に日向に傳道しつゝある渡邊榮太郎氏なりとぞ。偶々備前國邑久郡上阿知村に於て巡禮の子前原定一の饑餓に迫れるを目擊し測隱の情禁じ難く、遂に引取りて之を教養することゝせり、時に明治二十年四月二十日なり。それより國に殘せし夫人を呼び寄せ、寺の一室に於て愈孤兒院の事業に着手せり。尚ほ愈弧兒院の事業に志を立てたりしは其頃我國に來遊せし英國ブリストルの慈善家ジョルジ、ミューラーに負ふ處多し。醫學校卒業前になり、醫を以て立たんか、孤兒の友たらんか、何れを撰ぶべきかの問題は氏の爲めに大なる煩悶を與へたり、而して君が胸中に鬱勃たる孤兒救濟の理想は抑へんと欲して抑ふる能はず、遂に決心して數年間刻苦して筆記したるノート及び醫書を燒棄し、以て決心の臍を固めたりき。此時夫人の如きは夫は狂氣せりとて打騷ぎた

る程なりき。斯くて愈孤兒養育の爲めに一身を犧げしが、扨その經營の方法を見るに、最初はジョルジ、ミューラー主義にて、祈禱を以て經營の基礎となしたりき。蓋し、當時の社會は訴へても同情の無き時代なりしかば其間の苦心は一方ならず、そが餘りに長く續きし爲め、夫人は健康を失し、遂に逝去するに至りぬ。

○其後明治二十六年同志社病院に入院し居たる時「最暗黑の英國」を讀みてブース流を入れ、信仰と共に有ゆる手段を用ゆるに至る。丁度其頃震災などもあり、事業擴大し、其維持には頗る困難を感じたることとなりき。

其後氏は院兒を敎育するに半日敎育、半日勞働の主義を執りしが、一日東京市養育院を參觀し、窮民や行路病者の癈瘵として院內に群居し、食事のベルの響くと共に爭ふて食卓に就ける實況を見て、自勞自營の大切なることを觀じ、俄然寄附金を以て院兒を養育するは偶以て彼等が乞食根生を養成するに過ぎずとなし、即ち天下篤志の義捐者に對しては其寄附金を謝絕し、茲に從來の主義たる半日、敎育半日勞働の制を一變し、晝働夜學の主義を執るに至れり、岡山孤兒院に米搗、活版「マッチ」製造、麥稈製作、花莚織、西陣ネル製造、大工、鍛冶及農業等の實業盛に行はれたるは此時の事にて、即ち明治二十八年頃なりき。

其頃、信仰上に於ては新神學にかぶれ信仰上の動搖激しかりしが、偶虎列刺病に罹り、九死に一生を得たる時、基督の十字架にかゝれば生くとの天よりの聲を聞き、再び單純なる十字架の福音に歸りたりき。歌ふて曰く「既に早死せし此身を救はれて殘る月日を誰が爲にせん」と。

三十八年頃院兒千人を超へ、事業大に擴張せり、それより音樂隊、活動寫眞隊などを組織し廣く同情を天下に訴へたりき、然るに其結果は餘り好ましくなかりしかば、最近に於ては之を廢し、主として農業に從事せんことを志し、昨年春全く岡山を引拂ひ、日向茶臼原の農園に引移れり。

○要するに石井君は日本の慈善救濟事業に於ける新時代の元祖なり。氏の苦心經營は我社會をして慈善事業に注目せしむるに多大なる貢献ありき。傳道心の强烈なる點に於て又吾人の模範なりき。

我國現下の慈善事業五百四十八團體にして、其收容せる者六萬九千九百五十五人、而して是等の薄倖者を致養監督する職員四千三百十五人あり、而して氏が此間に於ける先覺者の巨頭にして且つ其事業の成績より見るも斯界に於ける第一人たる事は蓋し何人も否まざる所なるべし氏は聖書の愛讀者なりき、曾て之を開き見しに、約翰傳第十三章耶穌が我例を示すとて弟子の足を洗はれた所及び保羅が同胞の爲めならんには、或は基督より絕れんも我願なり云々とあるところに、血液を以て線を引けり。而して氏は、斯くの如く讀んで感ずるのみならず。之を實行したる人なりき。（山室軍平、留岡幸助兩氏の談による）

金壹百圓也
右會長島田三郎氏昨年十一月本會に寄附せられたり
金壹百圓也
右顧問森村市左衛門氏本月本會に寄附せられたり
謹しんで會員一同兩氏の御厚志を感謝す
大正三年二月　廓清會本部

雜誌の雜誌

將來觀百方面 我國基督教の將來

法學博士 浮田和民

▲過去の基督教

基督教の將來を論ずるには先づ過去の狀態に就て考へればならぬ。從來の基督教には發展し難き種々の障害があつた。此の過去の障害を切り開く事の出來るや否やが基督教の前途に横はれる問題である。カトリック教にせよ、プロテスタント教にせよ、皆從來の型を其の儘に持て來て夫れを日本に當て嵌んとした。之れは甚だ無理な不自然な話と云はればならぬ。宗教は生命であり、活ける力であるべきものである。活ける人間に信仰せしむるもの、活ける人間の信ずべき道である。其活きた人間に、過去の死んだ型を持て來て、其の型に入れんのが從來の基督教であつた。此の過去の型は進歩發達する日本國民には當てはまらない。從來の基督教が進歩發達せぬ理由の一は確かに此の西洋在來の型を持つて來て日本に當嵌んとする所にあつた。故に今後は此型を破つて、活きた基督教を日本に傳ふることが必要である。

第二には、基督教は既往に於て一時蔓延の傾向があつた。然しそれは何も基督教其物の力でなく、西洋近世文明を笠に着て基督教を説いたから、西洋文明を歡迎すると同時に、基督教をも歡迎したのに過ぎないのである。所で今日は西洋文明に就て非常な批評が西洋自身に起つてゐる。即ち西洋文明と云ふ事が弊害を伴ふて來た。そこで徒らに西洋文明を引合に出して基督教の効果を説く從來のやり方は過去の夢となつてしまつた。

▲初代基督教發展の秘義

第三には之れは西洋文明の弊害の一つで有るが、今日は實に經濟上の生活が尤も人心を支配し、人心に苦痛を與ふる直接の問題となつた。故に經世の士は先づ人間の經濟的生活に救濟を與ふる事をしなくてはならぬ事となり、爾余一切の問題は此の經濟的生活の問題を解決しなければ其の解決が出來ぬと思はるるに至つた。基督教は人類の心靈上の救濟が其主たる目的で、經濟問題を解釋するは直接の目的でない。然るに今日は經濟問題が、主要の問題となりて、基督教會夫れ自身が經濟上の獨立が出來なければ社會に向いて何等權威を以て之れに臨むことは出來なくなり、基督教自ら經濟生活の大問題に接觸して、自分で之を解決するの力なく、從來の教會の力では如何ともし難き場合に立ち到つたのである。思ふに基督教の歴史に於て今日位重大問題の基督教の前途に横はりつゝある時代はない。往古より基督教は大問題に接觸して、其問題を解決せんため奮闘し、夫れに打克つ事によりて、基督教夫れ自身の發展を遂げた。例令ば初代基督教の問題は世界中は羅馬帝國に征服せられ、從て其の國々の宗教も羅馬に壓倒せられて國家は存立を失ひ、宗教は偸安を失ひ、人類は歸趨する處を知らなかつたのにあつた。即ち當時の問題は如何にして彼等に精神上の救ひを與ふるかにあつた。言ひ換へて云へばユダヤ教や希臘羅馬の神話教では、精神的絶望の淵にのぞめる彼等を救ふことは出來なかつた。此の時代の痛切なる要求に應じて、ユダヤ教から換骨脱體して基督教表はれ、專ら人心の救濟偸安に任じ、遂に精神的に羅馬をも征服するに至つた。初代基督教の成功は此の時代の大問題に觸れて之を解決した所にある。

更に又中世紀に至るや流石の羅馬帝國も遂に衰微し蠻族は羅馬を蹂躙して、天下は暗黑となり、國家は何等の權威もなく人心の希ふ所、趣く所は現世の生活よりも未來の冥福にあつた。即ち社會は無政府の狀態で教會は國家の上に立ち、精神的王國を形造らればならなかつた。之れ教會が國家の上に一種の國家を組織したやうな働きを以て、人心を支配するに至つた所以で、これが中世基督教の成功した原因である。新く基督教が世の中に成功するには時代の大問題を捕へ、それに向つて解決を與ふるにある。そこに基督教の進步と生命とがある。基督教は昔も今も同じやうではあるが、其實は種々樣々の進化變遷をなし、時代の大問題に觸れて、其内容を豐富にし、發展進步して來て居るのである。

▲基督教發達の四期

そこで今日までの基督教の變遷を見來れば今日は恰も第四期の一大時期に際會して居ると思ふ。即ち第一は初代基督教の時代、第二は中世のカトリック教の時代、第三には、プロテスタント教勃興の時代、即ち中

世的基督教が文明の大問題に逢着して一大變化をなした時代である。然しながら、今日はプロテスタントは中世のカトリック教の誤謬を打破し、人心に自由を與へるに至つた。然るに其の結果は新教の各派起り、今日に至りては歐米諸國は宗教上の信仰は殆んど極端まで自由になつた。故に今日はプロテスタントの使命は終りを告げた譯である。今日の基督教會を見れば、基督教と云ふものはない位多くの宗派が出來て、殆んど取收すべからざる有樣である、種々の基督教はあるけれども、純然たる基督教はない。此の點よりして基督教も多神教と同じ事である。何となれば同じ神、同じ基督を信ずるとは云ふものの其の教義信仰の内容が違ふ樣に理解されてをるから、違つた神を崇拜すると殆ど同じ結果になるのである。而して世界の形勢は殆ど第一世紀の羅馬時代と同じで、天下が一帝國に統一されて居ると云ふ譯ではないか、文明の普及のため世界は統一せられ一揆となつて居る。即ち文明のために世界の何れの國とも相交はることが出來、同じ文明の下に立つて居るのである。故に今日は此の時勢に適應した一大宗教が起らねばならぬ時である。從來の宗教な見るに一として其儘で此要求に應ずる世界的の宗教はない。そこで私の希望する所、信仰するところではユダヤ教が其の時代の要求に應じて換骨脫體し基督教となり來つた樣に、プロテスタント、又はプロテスタントの進んだものが、此際更に一大變化をなして世界の大宗教を生み出し得る樣に、當教努力しなければならぬと思ふ。

今日では西洋の文明に對しても不平がある。又東洋文明に對しても勿論大不平である。故に今後の宗教は唯西洋の宗教を以て東洋を化するとか、或は東洋の宗教では人類の教化は出來ぬとか云ふ時ではない。今日の基督教の立場は恰も初代基督教の立場に立つて、現在の文明潮の上に超然として卓越したる神の王國を建設するとの大理想の發揮に努力すべき時代である。故に其教理の如き、決して哲學的の複雜なものでなくとも、唯熱心に正直に、宇宙の根本に對する確信、即ち人類平等の理想を普及せしむるやう、公平にやればよいのである。されば日本の基督教としては何處までも日本的の基督教を作るべしと云ふのは、愚も亦甚しきもので、何處までも世界的の基督教、人類全體の基督教でなければならぬ。故に日本の基督教も西洋の形式や習慣に拘らず、基督教の大目的を現在の世界事情と、我國の事情とを參酌して進步的態度を以て進む方針を取らねばならぬ。是迄の我國基督教徒及宣教師の態度は、日本を感化せんとする一方で、西洋文明の弊害は之を云はず、專ら我國の缺陷弊害のみをあげつらうた。基督教は東洋や阿弗利加のみでなく、基督教國に傳道せねばならぬ。否眞に基督教徒自からが、基督教を學ばねばならぬ時代である。基督教が世界に廣まらない譯は基督教國自からが基督教的でなく、クリスチヤン自からが基督の教を實行することが出來ないのが尤も主要なる原因である。

△現代世界の大問題

現代に於ける世界共通の大問題は第一に如何にして國際間の平和を維持すべきかてふ問題、第二に人種問題、即ち世界各國の人間が互に相接觸するに至つて、起つて來た大問題である。之れが解決には今までの西洋の基督教では間に合はなくなつて來た。何となれば人種を同じくし、文明の程度を同じくしてをる國民と國民又は國家と國家の間には人類平等、四海同胞も云へたが、今日の如く世界各國人民が相接觸し、異人種が相隣する場合には人類の平和平等と云ふ如きは一の理想であつて、實際に於ては容易に行はれない。此の人種間の軋轢を緩和し、國際間の平和を增進するに非常なる信仰と、大なる奮鬪とを要する。而して今日の基督教國は此の人種間の平和、又は國際問題に對して其理想を實行することに非常に困難を感じてをる。

次ぎには社會問題と宗教との關係である。即ち資本家と勞働者との紛爭、或は婦人問題、又は一方には社會主義、無政府主義の如き急進思想あれば、之れを危險思想として迫害し、撲滅せんとする保守主義の思想がある。特に新しい文藝なるものが起つて、他の一方より此の社會主義や無政府思想を流布し、性慾問題を唱へて社會の基礎を根底から破壞せんとするものがある。基督教が之れ等の問題の解決に當り得るや否やは問題であるが、基督教が斯かる大問題に對して、奮鬪努力して文明の破壞及び人類の墮落を救濟するには十五六世紀の時に宗教界に大人物が出でたやうに、どうしても教界から偉大なる人物が出でて、之に當らればならない。さうなれば基督教將來の發展は疑ひないと思ふ。

△基督教の大理想

多分二十世紀には宗教的大運動が起るであらう。併併今日の處では夫れが東洋からか、又西洋からか分らない。凡て天下の形勢は窮まりて後開くるものである十九世紀の物質文明の膨脹は精神的文明の膨脹を促しつゝあるものである。物質文明が十分に發展すれば、社會は再び精神的になつて來るに違ひない。今や科學の應用の進步した結果、社會は貧富の懸隔甚しく不平不滿にみち、罪惡は社會の上下にみちてをる。而して人種間の軋轢、勞働問題、婦人問題、性慾問題等十分なる解決が出來ないために、懷疑思想又は無信仰の思想が益々跋扈し、人心は歸趣する處を知らざる有樣で

ある。されど此勢ひは之れで已むものでない。必ず此物質文明の膨脹の結果、精神的に世界的統一の大理想が現はるるに違ひない。之れは現代人の希望であり信仰である。此の大理想が如何にして實現されるか、豫言者と雖も之れを豫言することは出來ない。唯だ人類に此希望があり、理想があることは事實である。夫れがある間は人間は決して墮落するものでない。而して人類が墮落せぬ間は基督教は發展の希望があるのである。故に基督教の使命は何處までも人間の精神中最大最高の理想を發揮するために努力すれば足るのである。

▲基督教に對する國民思想の變遷

小崎弘道

基督教が我國に傳はつて以來五十余年と云ふが、之れは宣教師が始めて我國に渡來してからの年數で、我國に基督教會を設立してからは未だ四十年内外である。而して我國民に基督教が信ぜらるるに至つてからは未だ三十年を出でずと云ふことが出來るであらう。我國は維新以來熱心に泰西の新思想を輸入咀嚼して居るものであるが、獨り基督教のみは之を歡迎しなかつたのは全く三百年來の偏見惡感によるものとなさねばならぬ。然るに明治二十二年に發布になつた憲法に由つて信教の自由を保證されて以來、幾分か之に對する偏見惡感を薄くした樣であるかなれども、日清戰爭當時に於ける日本主義、國粹保存主義の復興と共に、外教と云ふ名目の下に、大に之を嫌忌する事となつた。日露戰爭以後基督教に對する思想は大部かはつて來たが、一昨年に於ける三教會同で、大に之れに對する偏見惡感が打破せられたのである。更に近時に於て政治家教育家が宗教の必要を認むると共に、基督教に對する偏見も薄らぎ來り、之れと同時に加州問題其他の外交問題によつて、國民が世界的の思想を歡迎すると同時に、基督教をも歡迎することゝなつたのは近時著しき現象となさねばならぬ。教界外の形勢が如斯一變しつゝある今日、基督教が將來長足の進歩をなし、我國の大勢力となるに至る事は疑ふべからざる事である。

▲基督中心の基督教

然らば將來我國に傳はらんとする基督教は如何なるものであらうかと云ふに、基督中心の基督教たるべきは論ない處である。宗教の力ある處は信仰にあつて存す。而して熱烈なる信仰は基督と其十字架に於ける信仰より生じて來た事は、從來の實驗に徵して然るのみならず、今日の歐米に於ても實に然る事であれば、將來に於ても又然らざるを得ざる者である。勿論教會の組織や形式やは時により其趣きを異にすべきは勿論であるが、大體の信仰は何時も變るものでない。使徒等の信仰も今日の吾人の信仰も、今後の我國教會の信仰も同一でなからねばならぬ。

又將來の基督教は平信徒の宗教であるべきは疑ひない事である。歐米の教會にても教會の運動が漸次平信徒の上に及びつゝあるは近時の著しき現象であつて、平信徒運動とか、男性宗教運動とか、又監督教會内に於ける兄弟主義の運動とか云ふが如きものは何れも法性質を帶べるもので更に青年會、共勵會、又は日曜學校運動の如き皆平信徒的運動の一に外ならぬのである將來我國の基督教會に於ても如斯運動が其特色たるべきは疑を入れざる所である。

終に今後の我國の基督教は飽くまで傳道的の宗教でなからねばならぬ。我國を悉く教化するのも容易でないのに、朝鮮の教化、支那の教化、更に進んでは印度や、西亞細亞の布教の如きも日本人が任じてなさねばならぬ處である。日本が國家として亞細亞州の國々を率ゐて起つ以上は、宗教に於ても又然らざるを得ざる處で、如斯大抱負を實行するには其宗教が飽くまで傳道的でなからねばならぬは云ふまでもない事である。

▲問題は内部にあり

井深梶之助

今日基督教に就ける問題は外部にあらずして内部にあると思ふ。今や社會は基督教に向つて門戸を閉ざして居る處はない。寧ろ過去五十年の經驗から、無宗教無信仰の結果社會の不統一、道德の頽敗を憂ひ、政治家も教育家も、實業家も、一樣に宗教的信仰の必要を感じつゝあるのである。先頃の宗教大會に於ける阪谷市長の演說の如き、實に此の社會の聲を代表せるもので、市長が政府も、人民も五十年來の無宗教の恐るべき結果に覺醒して、宗教家に兜をぬいだのであると云はれたのは確かに至言である。而して此の社會の要求する宗教とは果して何であらうか、思ふに之れは從來我國に普及せし宗教ではない。在來の宗教の無力にして國民の頽敗せる道德心を救濟することの困難なるは明かなる所である。左れば今日社會が要求する處の宗教が如何なる宗教なるかは推して知るべしである。換言すれば社會は云はず語らずの中に基督教を要求して居るのである。

故に今日の問題は外部にあらずして、基督教内の力が此要求に應じて立つを得るか否やと云ふ處にあるのである。今日の教會はどうも遺憾ながら甚だ薄弱である。されば今日は大に内部の充實を圖り結束して立たねばならぬ秋である。今日は基督教活動の好機である。社會は門戸を開きて歡迎して居る。我等は講壇に於て基督の精神を力說すると同時に、實行に於て基督の精神を

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

發揮せねばならぬ。而して他宗教に對し餘りに抱擁的の態度をとることは策の得たるものではないと思ふ。斯く云へばとて一も二もなく他宗教を非難攻撃せよと云ふのではないが、餘りに共通點などをあげてあれも之れも同じと云ふよりは、基督教の特長即ち他教に卓越せる點を高調力説しなければならぬと思ふ。之を要するに内部を充實し、結束して社會に打つて出づるに於ては、基督教の將來は實に有望なるものであらう。

此意味に於て來年度に於ける全國協同傳道の如きは實に必要な且有效なるものであると思ふ。

（談話筆記）

以上「基督教世界」所載、

男子の不品行によりて描き出されたるさま〴〵の悲劇

●踏みにじられた私の一生

をみなへし

私は何と云ふ生甲斐のない、恥かしい身なのであらうと、つく〴〵はかない思ひがいたします。聞いて下さる方々も、さぞやおさけすみにもなり、またお呆れになることゝ存じます。

幼い頃は何一つ不自由もなく、お乳母日傘で育つたのでした。處が父の放蕩と、株式の失敗に、私の十六の時家はつぶれてしまひました。さうして私は奉公に出る身になりました。

涙ながらに連れられたのは、相當に名の通つた資産家、當時は二三の會社の重役をつとめて居られた家でした。御主人御夫婦にお嬢様お一人、それに下女三人と云ふのですから、初奉公のつらさを心配して居た私は、案外樂なのを喜びました。それに奥様が非常にお可愛がり下さつて、髪なども一々今日は桃割れに、今度は高島田にと、何から何まで親身のやうに世話して下さいました。それに又旦那様も男に似合はぬよく氣の付く方で、奥様同様可愛がつて下さるのでした。

かうした幸福な奉公の中にも、一方我家はいよ〳〵零落して、私一人を此地に殘して片田舍に引込んでしまひました。つゞいて母が色々と心配の餘り病ひついて、弟二人妹一人を置いて亡くなつたので御座います。何事も手につかず、泣いて居ります私を、旦那様も奥様も共に親切に敎へ諭して下さいました。併しその前後から、奥様のそぶりが少し變つて居ました。月日の經つに從つて、何かにつけて私をお叱りになり、その上ならず妙な厭味ばかり仰有るのです。

或夜お居間から只ならぬお話の聲に交つて、「いそ」「いそ」と云ふお聲が聞えるので、ふと耳を聳てゝみると、情けないではありませんか、奥様は旦那様が私をおかまひ下さるのを變にお取りになつて、お怨みの樣で御座います。私は餘りの事に、早速お暇をとりたいと、父にくれ〴〵も頼みましたが、許されませんでした。其のうち私は自分にも不安に思ふやうなことがあるので、默つて出てしまはうと決心した其の夜のことでした。なんと云ふ不運な身でせう、恐ろしい悲しい目に遇つて仕舞つたのです。一かどの紳士と敬つて居た人は惡魔でした。私は何と云ふ馬鹿な弱いものでしたでせう。惡魔は機會を狙ひすまして、私の一生を踏みにじつたのです。私は何うする餘地もありませんでした。恐ろしさ口惜しさに我身も燒き亡ぼしたく思ひました。幻げながらも胸に描いた希望も理想も、果敢なくこはされた悲しさに、二三日は頭も上りませんでした。其の時私は十八でした。奥様はその事實をお知りになつたのか、さう弱い身體では使はれぬと云ふ口實の下に、お暇をやるからと申し渡されました。

私はこれを却て幸福だと喜んで出るには出たので御座いますが、何う考へても家へは歸れません。思案をして居る處へ、何時も其のお家へ出入りする年寄の婦人が、「當分宅においでなさい、またよい口を探してあげる」と云つてくれましたので、深く考へる暇もなしに、其の家の二階へ厄介になりに參りました。まづ惡魔の手を逃れたと思つたのは間違ひで、それは其の人が御主人からの指圖で、私をかくまつたのでした。一歩も外出をゆるさず、しかも御主人は度々たづれて來られて、色々と親切ごかしに私の心になびかさうとなさるのでした。或日のこと、私は逃げて父の家に歸り包むにあまる今の事情を訴へました。しかも父は、自分のある急場を莫大な金子を以て御主人に救ふて頂いたそのために、既に一人の娘を犧牲にすることを承知して居たのでした。泣き入る私を「かうなつたも因縁だ、旦那様には既に隨分御世話になつて居るのだからお前も家の爲に辛棒をしてくれ」と云ふのでした。餘りの情けなさに私はもう自分の身をも捨てやうと、狂

紙じみたことをしたのでしたが、折柄探しに來た前の年寄に止められて又も連れて歸られました。氣分もすぐれず、悲しき日を送る中、自分の身體のすでに動きのとれぬ破目になつたことに氣がつきました。

其中に奧樣のお耳に入つたのでせう、お家では日々波風の絶間なく、其の都度私は家を變へられ、月に二度も三度も轉宅するのでした。さうした日蔭の生活をする中に、昨年の暮れ男の子を産みました。決して自分の身の上に滿足して居る譯ではありませんけれども子供の生長をのみ樂しみに、奧樣に濟まぬ〳〵と思ひながらも、かなり變化に乏しい一年を過しました。或日のこと突然奧樣がお出になつて「お前は恩を仇で返す鬼の樣なものだ、隨分お前のために私の心を苦しめられたが、濟んだことはもう何も云はぬから、直樣こゝを立ち退いて此後の身をお立て、今日からこの子供は連れて行く、いゝ乳母も雇つておいた」と御有つて、すぐ子供を抱いてお立ちになります。私は奧樣のお顏を見るとハッと思つて、とみに御挨拶も出ませんでした。併しやう〳〵氣を落ちつけ、乳ばなれする迄お待ち下さる樣にと、ひたすらお頼みいたしましたがお聞きいれ下さいません。御心中をお察しすれば決して御無理ではありませんが、すさまじい形相で、荒々しく子供をもぎ取つてお歸りになりました。あゝ其の夜の淋しさ、乳ははる、抱く子はなく、今頃は御本宅樣できつと泣いて居るだらうと、立つても居ても居られませんでした。

翌日御主人から不思議に乳母の乳をよく吸つたと聞いて、やれ〳〵と安心いたしました。そして子供を惜んで居る處ではない、奧樣のお言葉通り早速身を引かねばならぬ。自分もそれが踏むべき道であると思ひ決して、その旨をお願ひしたのですが、何うしてもきゝ入れて下さいません。「自分だけよければそれでよいつもりか、今迄の恩を何うして返すつもりだ。いやさ、これから後どうして父や弟妹を養ふつもりだ」と厭味やらおどかしやら、私に力さへあれば、無理にも引き取つてと思ひますけれど、悲しい事に、教育なき身には何んなに稼いでも、老ひたる父を安らかに、弟や、妹に人並の教育を受けさせる譯には參りません。この間も弟は泣いて「姉樣にはすまないが、何うか中學校だけは、卒業させて下さい、僕が立派に今日の我家の不名譽は取り返しますから」と云つたのは、今もありありと目の前に浮んで來ます。妹も今女學校に通つて居るのです。それやこれやを思ふて、又も私の弱い心は不孝々々に主人を頼る氣になります。さうして又も隱れ家を變へて、氣鬱な日を送つて居ります。

女一人に下女一人の暮しには、日髮日化粧しても、有り餘るのは時間で御座います。せめて何か手に仕事が欲しいものだ。是非ミシンの稽古をと思ふても許されません。一から十まで唯指圖通りに暮らす身に、外へも出られず、世間からは家庭の不和のもとゝ恨まれ榮耀榮華におごると見らるゝ妾の身の果敢なさはこのやうなもので御座います。多情な男子ほど罪なものはないと思ひます。

二代にわたる妻妾の爭ひ

ひで子

以前私の奉職して居た小學校に、一人は一學年、一人は二學年で、どちらも大層よく出來る同姓の子供が居りました。二人の間がよそ〳〵しいので、無論初めは姉妹とも思ひませんでしたが、或日學籍を調べて見ると、同じ人が二人の保護者であつたので、早速家庭調査に取りかゝりました處、實に驚きました。二人の中の一年の方はその保護者の本妻の子で、二年の方は妾（酌婦上り）の腹に出來た子供であつたのでした。

當時本妻は一寸した乾物店を出して居て、子供と云ふのは前の娘が妹で、今一人十八歳になる姉がありました。妾と云ふのは料理店を出して、彼の娘が一人あるばかりでした。この姉妹の父と云ふのは、常に妾宅にばかり起臥して居て容易に本宅へ歸りませんので、本妻の方は嫉妬の餘り非常に妾を惡み、妾の方も本妻を仇敵のやうに思ひ、非常なあつれきを極めて居ると云ふことです。それから私は、親達はとにかく、せめてこの頑是ない子供たちばかりは、お互に仲よく出來るやうにしたいものだと、よく〳〵二人の擧動に注意して居ると、妾の子がメリンスの着物を着れば本妻の方のもメリンスを着る。一人がリボンをかければ又一人がこれに勝る上等のものをかける。凡てがかう云ふ始末です。その上二人共母親を見習ふて、子供らしくなく、互に憎み合ひ、何かにつけて爭ひをするので、その都度よく〳〵誡めましたが、氣をつけるのは其の當座だけで、間もなく後もどりして仕舞ひます。

妾の子は卒業後教師になるつもりで、その頃郡で設けてあつた准教員養成所に入學しました。根が出來る質ゆゑ、終了の時は首尾よく免許狀を貰ひ、ある近くの學校に奉職するやうになりましたが、もうその頃は母に強ひられては、自分の家の酌婦とゝもに、客の前に出るやうになつたと聞いて、實に私はがつかりして仕舞ひました。在學中には如何に母に強ひられても、決してかやうな事はしなかつたのです。さうかうする中、本妻の子も卒業しましたが、やはりこれも妾の子に負けてはと、養成所へ入つたのですが、あいにく此の方は免許狀がとれませんでしたので、妾の方ではい

ゝ氣味だと云ふ。それを聞いた本妻の方では、殆ど狂せんばかりに口惜しがり、泣いて騒いで居りました。殊に本妻の長女は前から父のことで氣を揉んだり、母に同情したり、且つ今度の口惜しさやらで、強度のヒステリーになつて仕舞ひ、譯もなく泣いたり、又一日位姿を隠しては、家内中に心配をかけ、夜になつて椽の下からヒヨツコリ出て來たりする始末、母親もそんなこんなを心配して、これも又同じやうになり、いたましい一家の有様でした。

その翌年、本妻の子は××女子師範の生徒募集が出たのを幸ひ、今度こそ師範に入つて妾の方に鼻を明かしてくれんと、日夜殆ど夢中で勉強しました處、妾の子もそれなら私も入らうと、これも本氣で勉強しはじめました。首尾よく二人共入學が出來ましたが、二三ケ月たちますと、本妻の子は過度の勉強が元になり、肋膜を病つて休學し、半狂亂の母と、ヒステリーの姉の許に歸つて居ると云ふことを、昨年當地に來てから聞きました。父親は未だ自分の行を悔いないといふことであります。氣の毒に堪へません。しかしこれ等の父母に教育された、かういふ娘たちが、やがて教育者になることを考へると、寒心の至りです。妾の子は現に師範××學校の二年生として勉強して居ります。

◎日陰の身の上

野菊子

私は物心ついてから一日として煩悶せぬ日はありません。世にも情けない境遇なので御座います。今から十三年前の師走半ばの雨の降る夜で御座いました。母は臨終の苦しい息の下から、雨の眼にあふるゝ涙をためて、「後に殘るお前の行末が案じられてならない」と幾度か繰り返し〳〵、堅く私の手を握つて、若き盛りの三十路を一期に、亡き人の數に入りました。

當時十一歳であつた私は、程なく只今の家に引きとられて、肩身のせまい居候の身となりました。最初の頃は見ず知らずの家庭に入つて、朝な夕なに亡き母のみなつかしく、何故母さんは私も一緒に連れて死んではくれなかつたかと、それはかり恨んで居ました。内儀さんは憐み深い方で、哀れな身の上よと、何から何まで世話をして下さいます。併し兩親のそろつて居るこゝの子達は、今日は父さんに連れられて山遊び、明日は母さんと芝居見物と聞く度に、あゝ私も母さんが居たならば、心のまゝにはならずとも、せめて母さんと兩の腕にすがつたものを、今は誰れ一人取付く島もない捨小舟の、それに似た不遇の身と、一人泣いて暮しました。月日の經つにつれてやう〳〵家内の人々とも馴れ、數ある下男下女とも親しみ合ふ樣になつたので、心細さも前程ではありませんでしたが、満つれば缺くる世のならひとか、この幸福な一家は、商業上の手違ひから破産の悲境に陷り、下男も下女も一人減り二人減り、賑はしかつた家の中は、火の消えたやうに憂ひの雲に蔽はれてしまひました。

昨日までお内儀様お嬢様と、多くの下部にかしづかれた人たちは、今日は手づから水仕の業もすると云ふ有様、暮し向きにも差支へる家に居候して居る身はまたどんなに心苦しいか、言葉には盡せません。只家内の方々と、力を合せて及ぶ限りを盡さうと立働いて居ます。それに近所の人々や出入のものゝ話によつて、何時となく分つた私の身の上は、一層こゝの方々に面目ないものでした。主人の親に當る亡き前主人の外妾は私の母であつたのです。自分はかうした身分を知つてから、乏しい家の居候、あるべきでない妾の子、實に、ある甲斐のないこの身だと思つて、何につけても、一層に我身の行末が悲觀せられてなりません。何事にも望みを持たず、かうじめ〳〵と暮すのも、日陰に生れた宿世からの因果でありませう。餘り今宵は淋しきまゝに、ふと御社の婦人之友を拜讀致し、男子の不品行によつて描き出された慘劇と云ふ投書募集の御趣意を讀んで、あゝこゝに私の苦しい心を聞いて下さる方があると、筆執りはしたものゝ、思ふ心の萬分の一も書くとの出來ないのは殘念で御座います。(婦人の友)

◎投書寄稿を望む

論文可なり、散文可なり、各地の風敎狀態、公娼私娼の實生活、之れに伴ふ諸般の悲劇、其他男女の貞潔に關する家庭の波瀾等より、婦人問題、生活問題、慈善救濟の諸問題等、何にても可なり、諸君の寄稿を歡迎す。

◎會費の納入に就て

會費はべて前金に御拂込下さる樣、常に願上げ居れども、滯納の向少からざるは遺憾なり。かくては整理上甚差支迷惑につき、此際至急左の振替貯金口座により御拂込み相成度し。

振替東京二七〇七二番

廓清會本部

ment should be warned of the logic of retribution whereby men and nations reap as they have sown.

The above is an extract with slight modifications of the original from Josephine E. Butler's "Personal Reminiscences of a Great Crusade." We believe with our numerous friends and readers that these are the undying strains that Mrs. Butler, that devoted English lady of the "purity" cause, has bequeathed us to preserve, and venture to recall with pleasure that the same did feel our brave champions of the "abolitionist campaign" in Gumma Prefecture.

Needless to say, they waged a hard and long ensuing battle in bringing about the destruction of the old institution. It was March, 1882 that the abolition of licensed prostitution was first discussed in the prefecture at a meeting of the Prefectural Assembly. The motion was seconded unanimously, and submitted to the Prefectural authorities. This surprised the authorities concerned, but none were more surprised at the report than the owners of the houses of ill-fame. The latter were so much surprised that they immediately assembled at Mayebashi, the chief town of Gumma, and, with the assistance of villainous people, started a campaign against the new movement. To their extreme consternation, however, Governor Katori proclaimed that the licensed system be abolished June, 1888; the wise Governor knew how to respect the public opinion.

A gubernatorial change soon took place, and this rendered the execution of the proclamation very difficult. Mr. Yozo Sato, the new Governor, met by the violent attack of the owners of the brothels, was made to postpone the execution of the official notice. As a matter of fact, the Prefectural Assembly opposed the unfair decision made by the Governor, and resolved that the Governor's notice canceling the original proclamation could not take effect without its consent. The Governor, desiring to appease the Assembly, abolished in March, 1890 a number of small brothels, which could make only a feeble resistance. As for the rest, the Governor dared not take any definite measures and allowed them to indulge in the "immoral calling." The Prefectural Assembly could no longer remain submissive, and pressed upon the Governor to resign his post. The Governor ordered the suspension, and, finally the dissolution of the Prefectural Assembly, in order to fulfill his unjust desire.

A rupture ensued and made ominous developments—a committee chosen by the Assembly going to Tokyo and negotiating with the Central Government. The Central Government dismissed Governor Sato, and the new Governor who replaced him at last effected the abolition, December 31, 1893. The restoration of the licensed system was later attempted by men who are in favor of the system on more than one occasions, but every time the attempt was made it was repelled by the powerful attack of the Prefectural Assembly, thus ever since making Gumma the only prefecture in Japan that is entirely free from legalized vice.

A meeting in commemoration of the 20th anniversary of the abolition of licensed prostitution in Gumma was celebrated at the Mayebashi Christian Church on January 24 under the auspices of the Gumma branch of the Purity Society. . The Purity Society sent Vice-President Abe, and Messrs. Aburaya and Matsuyama to participate in the celebration. Following the meeting a social gathering was held, and the guests including the Chief of the Police at Mayebashi and the Chairman of the Gumma Prefectural Assembly were entertained at a dinner.

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

THE PURITY

Published monthly at the Head Office of the Purity Society,
No, 3, Sanchome, Mitoshirocho, Kanda, Tokyo.

Vol IV. February, 1914. No. 2.

Keep the Crusade Against Licensed Vice

Looking forward, as we must, to another term of conflict, and considering what may, and probably will be, the special trials which await us, we counsel you, Friends, to be strong. God forbid that we should ever trifle with the righteous conditions of success, for we know that every compromise is a loss of power, and would force us to begin our work over again! May He grant us the disciplined conscience whose unfaltering logic shall hold its own against every fallacy!

Our opponents continue to say that "something must be done." True! practical effort is wanted on every side, economical, industrial, social; legal reforms are required as well as moral and spiritual forces. It is true we had long neglected this work; but let those who blame us look round now, and survey the array of forces and agencies which sprung up in many places during the last twenty years, animated by our protest. Let them regard these efforts and results, and say whether we have not fully recognized the fact that "something must be done," and whether we have not faithfully endeavored to do that thing. But what some men mean when they call for something to be done, is that some provision of some sort must be made, whereby impurity may be divested of its unpleasant physical consequences,—that some organization must be planned, based on the recognition of prostitution as a necessity of our social condition. To these we have but one reply: while it is our turn to remind those persons that "something must be done," and that that "something" is that men must learn to live virtuously; that is the only possible remedy for the physical plague. But they are men who do not like to hear this; they will try everything rather than this. The end, however, will be the failure of their every effort to separate the moral and the physical laws of the universe, and the confirmation of this truth—that the only cure for the evils which they so much dread is purity of life. O! that men would turn from the evil of their ways, for then, though their sins should be as scarlet, they shall be as white as snow, and they shall find themselves in the hand of a Savior who is able to save to the uttermost!

Let holy charity continue, dear Friends, to be the inspiration of all our work. Pity for the suffering; justice for all; the oppressed to be delivered; the slave to be set free; the moral law to be obeyed to the last tittle; the soul of the poor to be delivered from the hands of the spoiler; and the Govern-

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY